

寶相華

『世界の潮流が変わるのか』

会長 小山新造
(昭36年卒)



平成十三年米国同時多発テロ以来、テロは全世界で増え続けて来ました。昨年はヨーロッパを中心に各国で起り、なかなかそれを防げないし無くなるという現実となりました。

また各国とも漫然とした既存政治に不満を持つ人が増えて、極右の考えや保護主義が出て来て、何か今までとは違う方向へ進み出した感が強まって来た様に思われます。オバマ大統領が、アメリカは今までの様に「世界の警察」ではいられない。世界で起こる様々な事すべてにはもうかまってはられない、という宣言をしてから加速されてこの様な時代に入って来たと思えます。

アメリカ・フランス・ドイツ・ベルギー等のテロ、そしてトルコでのロシア大使の暗殺、何故この様な事が起こるのか自分には分かりませんが、一番は貧しい人が多くなっているのではないのかという事であり。常に戦争をしているところ、食べるのがやっとなところ、賃金が低く生活が苦しいところ、要は心に余裕のないところ、そういう人達が増えたからではないのかと思われ。その様な人達は、現政権や現制度には反対しますし、今の状態を少しでも変えてほしいと思うでしょう。

宝相華会 (同窓会) 会報 No. 75

発行者 小山新造
編集者 藤原正義
発行所 奈良県立奈良高校同窓会
印刷所 共同精版印刷(株)

題字「寶相華」は天平時代の国宝「細字金光明最勝王經」より。(筒井寛秀(中11回)収録)

平成29年度
宝相華会総会

旧奈良中学・旧市立高女・奈良高校同窓会

日時 平成29年4月16日(日)
場所 ホテル日航奈良
(JR奈良駅西側)

総会 10:00～
記念講演 11:00～
「人のあつまり、物のあつまり、素粒子のあつまり」
講師 下浦 亨(高50年卒)
(東京大学原子核科学研究センター・センター長・教授)

懇親会 12:00～
会費 5,000円(当日受付で戴きます。)
但し、新入会員(本年度卒業生)無料。
平成25年以降の卒業生 3,000円

も、世界が平和で仲良くやってこられたのは、各国がグローバルズムを守り、国際的なルールに順じて協力し合ってきたからではないでしょうか。今アメリカはルールを決めたり、同盟関係を結ぶと自国に負担が増し力を弱める可能性が高く、それ故当事者間で交渉するのが良いと考えている様に思います。それがTPPの問題や、安全保障の問題に波及しているのです。

また、国際協力の第一線にいた英国・フランス・オランダそしてイタリア・オーストリアでも、国粋主義勢力が拡大しており、自国第一主義に走る気配があらわれて来ています。多国間主義が衰退すると国際関係の在り方を決める為にはルールではなく、国家間の力の強さにかわる事となり、今までの様には行かなくなるだろうと思われ。これからの国際社会との付き合い方が難しくなるし、国民の理解もより必要になると思います。教育も、マスコミもつと世界の現況や、歴史、そして他国の主義・主張を的確に教え、国民の知識を増す事が大切であると思えます。そして皆がその知識をもって、平和的に解決していく道を探るべきだと思えます。各国が自分たちの国さうまく行けば良いという考えにならない様に努力する事を祈ります。

変わらぬ校風とともに(年度末所感)

学校長 安井孝至
(昭52年卒)



母校の校長として、四十年ぶりに奈良高校に赴任して、一年が過ぎようとしている。校長室の障子様の窓から穏やかな日差しが差し込んだ春クーラーの不調のため、扇風機で悪戦苦闘した激夏、美しく紅葉した奈高の森を経て、厳冬の佇まいから、今、新たな息吹が芽生える好季を迎えようとしている。こうして校長室に座りながら部屋の中を見渡していると、一年間の出来事や思いが様々に浮かび上がってくる。自席の右手からは、東大寺

法華堂の執金剛神像が憤怒の形相で、「知恵を働かせよ、怠らず励め」と叱咤の声をかけてくださる。思えばこの一年、多くの先輩方や本校をご支援くださっている方々にご訪問いただいた。そして、ご自身のご勤務、在学の時代の思い出と重ね合わせて、これからの本校の充実発展に向け、校長にこれだけは伝えたいと熱意を込めて、様々なお話をいただいた。誠にありがたい話である。これを自分なりにしっかり受け止め、現今の生徒の変容や教育界の趨勢に対応しながら、学校経営に反映していくことが責務であると感じている。また、宝相華会の皆様にも、四月の総会をはじめ、七月のともしび会総会と大阪支部総会、十一月の東京支部総会にお招きをいただき、校長として、学校の

経営方針や教育活動、生徒の活躍ぶりなどを報告させていただいた。本校卒業生の皆様方が、各界各層で活躍されていることは、生徒の大きな励みとなっており、各総会でいただく名刺の多彩さ、役職としてのご活躍の様子を拝見するにつけ、これが、自分の預かる奈高生の未来の可能性だと身の引き締まる思いである。左手からは、円成寺の大日如来像が、全てを見通す慈悲の表情で温かく励ましてくださる。私も校長として、常々本校の先生方には、生徒を自分の枠にはめ込まないで広く自由に色々なことに興味を持たせ、挑戦させてやってください、教師以上に力を持った生徒をどう伸ばすかを考えてくださいとお願ひしている。そのためには、たとえば受験に必要な総合的な学力や大学での専門研究に必要な能力とともに、人間力を幅広く育てるリベラルアーツ、つまり高校段階での、専門分野に特化しない教養講座を折に触れて開設することが大切であると

考えている。幸い本校には、図書館文化講座をはじめ様々な教養講座があり、運動部活動の途中でも汗を拭きながら会場に駆け込んでくる強者もいる。今年度のある講座では「毒」をテーマとして、講演者となった数名の教員が各専門分野から自由に解説し、生徒の質問にも柔軟に応じていた。また、先日はノーベル医学生理学賞を受賞した大隅良典教授と研究を共にした経歴を持つ教員が、大隅氏の学問に対する考え方や業績について語る講座を臨時に開いてくれた。このような話を披露すると、宝相華会の大先輩からも目をほころばせて、奈高はそうでないといけない、受験だけの狭い勉強ではなくリベラルアーツの視点は大きい大事、と温かい励ましのお言葉をいただくことが多い。限られた時間の中ではあるが、生徒も教師もいきいきと余裕を持って、何ものにもとらわれない、個を大切に、創造性豊かな教育活動を進めたいものである。校長席の正面では、不拔の

様相で掲げられた我が校の校風「自主創造」の扁額がこちらを見据えている。かの大隅教授は、ノーベル賞受賞後のインタビューで「大学に余裕がなく、学生たちが口をそろえて『人に役立つ研究をした』と自らを追い立てる。研究成果が数年単位で薬になるという短絡的な考え方をしないでほしい。」と語られたそうだが、我々も短期的な「成果」で生徒を追い立てるのではなく、もつとスケールの大きな、余裕をもって自らを高めていく生徒の自主性、創造性をこそ育てていかななくてはならないだろう。変化の激しい時代、流行の中で、我が校の校風は依然として、いやますます不易の輝きを放っているものと確信している。この一年、宝相華会員の皆様には本当にお世話になったことばかりで、誠に有礼の申し上げようもない。どうか、今後とも母校に対して、変わらぬご指導とご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。御挨拶とさせていただきます。

恩師の便り

教室の窓から

西田博嘉

元教諭（昭47～57年在職）

三十年も前のことです。近鉄電車の中で二人連れの女性から「西田先生」と声をかけられました。二人は、私が奈良高校の二年生で担任をした生徒でした。二人は母校のこととはすっかり忘れていたが、私に出会って奈良高校のことを思い出したと言いました。私との偶然の出会いが二人を高校時代に引き戻したのです。私もまた、奈良高校に勤務した当時のことを思い出しました。

三十年も前のことです。近鉄電車の中で二人連れの女性から「西田先生」と声をかけられました。二人は、私が奈良高校の二年生で担任をした生徒でした。二人は母校のこととはすっかり忘れていたが、私に出会って奈良高校のことを思い出したと言いました。私との偶然の出会いが二人を高校時代に引き戻したのです。私もまた、奈良高校に勤務した当時のことを思い出しました。

交差点、地理と歴史の境界領域、この授業は私にとっても貴重な体験でした。世界史の授業では、特にヨーロッパ中世都市について深い思いがありました。「都市の空気は自由にする」などの記述には興味深いものがあります。私も学生時代、「アルビジオア騒乱史」の講義のなかで参考文献として鯖田豊之先生の著書が紹介され、読んだことを思い出しました。奈良高校へ赴任して、鯖田先生が旧制奈良中学の卒業生であることを知り、改めて身近に感じました。生徒諸君にも鯖田豊之先生が奈良高校の先輩であることを紹介できたのは嬉しいことでした。

都市を中心に「交通路の持続性と変化」について考えました。三年生の学級遠足で加茂駅から浄瑠璃寺、岩船寺へ歩きました。途中、明治時代の一時期、加茂～奈良間を走っていた「大仏鉄道」のことを紹介しました。しかし、加茂駅のランプ小屋について紹介できなかったことが心のこりです。



JR関西線・加茂駅のランプ小屋（1998年撮影）

創立記念講演 「心の病と対処法、今昔」

河合 俊雄

（昭51年卒）

実は卒業以来、奈良高校に来るのは初めてです。三十年以上ここにきていません。だから、ここでこうして話すのはふさわしくないかもしれませんが、それでも奈良での仕事はなるべく引き受けるようにしています。

いるのは心理療法、カウンセリングです。心の病とそれへの対応というのが時代と共にどう変化してきたのか、という話をしていただければと思います。二つの時間のスパンがあって、一つは今私がかかっている近代の心理療法が前近代の治療とどう違うのか、もう一つのタイムスパンは、この五十年間で心とその問題が

どう変わってきたかというところとです。私が高校生の頃一番多かった症状は、対人恐怖と言われるものです。私もかなりそういった傾向が強かったと思います。そして今一番多いなと思うのは発達障害です。それらのことについてお話しできればと思っております。

私の場合、臨床心理学、英語で言うところのclinical psychologyですが、やっているのは心理療法(サイコセラピー)、あるいはカウンセリングです。ここではそのような問題、病の解消のために援助をしていくと同時に、その研究もしています。

心の問題にはどのようなものがあるのかということについては、わかりやすく言うとうつであるとか、例えば恐怖症、閉所恐怖症とか、あるいは摂食障害と言われるものがあります。食べ過ぎとか食べられないというものです。「このころの未来研究センター」ではこういう心理的な問題だけではなく、不登校やアルコール中毒、最近の発達

障害や統合失調症などの問題にも取り組んでいます。統合失調症については薬物による治療が専ら施されるのですが、それに対しても心理療法的なアプローチが施されます。そしてさらには、病院でのカウンセリング、また災害や事故の時の心のケアも含まれています。そういう意味で私の仕事というのは、研究者であり、同時に実践家であると言えます。またこのセンターには、脳科学の専門家や、認知科学、社会心理学、私のように臨床心理学の専門家や宗教学をやっている人もいます。そういう人達が心について様々なアプローチから研究しています。

また、同時に私は京都大学大学院の教育学研究科を兼任しており、大学院生の教育・研究と実践の指導をしています。そして、病院と個人の心理的な実践と訓練もしています。それは自主的に相談を持ち込んでくる人もいれば、ここには「発達障害」のプロジェクトがあるので、そこでやっている場合もあるし、私は神戸

戸に住んでいるので、神戸の内分科病院の専門業務でのカウンセリングなどもしています。大学は少し変わった勤め先で、大学の先生はサラリーマンができてそうにない人がしている感じがするのですが、私の場合は大学の他に二日間病院で仕事をしています。日曜日は大体研修会やセミナーがあり休みなしの生活です。なぜ臨床心理学に進んだのかということの説明したいと思います。学部は四年間ありますが、この時に臨床心理学だけでなく、実験心理学、つまり実験によって人間の心を理解しようとする方法や人間の知覚、感情、社会心理などを学んだりたくさんの実習があり、卒論が大きなポイントになります。そして大学院の修士課程の二年で実際に相談に来るクライアントさんについて、スーパービジョンを見ています。

スーパービジョンとは、私

が実際に誰か問題を抱えている人と面接をしている内容をベテランの先生の所に持って

行き報告し、そしてアドバイスを受けるという形です。今の制度ですと、修士課程に二年行つてあと一年すると臨床心理士の試験が受けられるのです。

法律で公認心理士という国家資格ができたので、二年後くらいにはかなり公認心理士に移行するのではないかと思います。そして修士を出した後、三年の博士課程があります。そこで博士論文を書くことが大きなポイントになります。昔は博士課程を出していても、博士論文を出さない人も多かったのですが、最近は書く人が増えていきます。

臨床心理士の基本的な勤め先として考えられるのは、やはり一番は研究者、あるいは病院です。私の大学院の時の五人の同級生は皆研究者になっています。最近の院生では、半分以上が研究者になって、比較的早い時期から病院や相談機関に就職する人が増えていきます。そして十

年くらい前の臨床心理学が非常に人気があった頃、教育学部の六十人のうち、四十人くら

いが臨床心理学をやっていた。しかし最近では、高校で臨床心理学をやっても就職がないという進路指導がされるので、志望する人が減っているそうです。

なぜ私が臨床心理学をやるようになったかということですが、それは死の問題と関わりがあります。父の河合隼雄が対談の中で「私は小さい頃から死のことを考えていて、幼稚園のときから非常にはつきりとした死の不安というものがありました。それがこういう仕事をやっていることの中核にあると思います。」と言っているように、私の場合も死とは、と考えた時、ユング心理学に関心を持たざるを得なかった。親と同じ事をやりたくないという気持ちもありましたが、非常に業の深いものを感じるのですが、この仕事を選ばざるを得なかったところがあります。

実際、心理療法をやっていると、死ぬのがこわいという悩みのある人は少なく、生きていく方がこわいという人の方がはるかに多いと思いま

す。私の場合、高校時代は楽しい活発なクラスだったのですが、私自身にとってはいい思い出がない、自分の中では暗いものと向き合っただけでいたと思います。そして奨学金をもらい留学して、博士論文も書いて、その後スイスのユング研究所という所で、前半は理論的なこと、つまり自分自身が分析を受けたり大事な訓練を受けたりしました。後半は実際にクライアントを持って、どうやってクライアントを見つめようか、どうやって資金繰りをしようかと考えながら、友人を通じてイタリアで二年半精神科医をしました。それが私の最初の仕事でした。ドイツ語圏の生活が長かったので、イタリア語圏では人生観が変わりました。道を走っていても誰も交通ルールを守らないとか、スイスに比べて大きく違うのでびっくりしました。私にとってはいい体験だったと思います。その後日本に戻ってきて大学に就職しました。

心理療法とは、十九世紀にヨーロッパで興ったもので、それまではなかったものです。フロイトが夢判断を行ったのが、ちょうど一九〇〇年に入った頃でした。それから心理療法が可能になるのは、ある種の心の歴史的变化が主体になっていきます。例えば、学校に行けないとか、物を食べ過ぎてしまったりか色々な悩みのある人が来ると、心理療法では時間と場所と料金を聞いて行うのが一番基本的なものです。そして、大事なことは悩みを持った人が主体的に問題を解決していくための場を提供するということです。だからカウンセラーはアドバイザーをしません、どうしたら悩みが直るのかというようなことには答えません。具体的に解決したり提案したりはしない。クライアントが主体的に解決していくことが非常に大事になります。なぜかと言えば、忠告で解決できるなら友人などの忠告です。で解決しています。わざわざ心理療法を受ける必要はありません。そして、助けてあげるとその一回はいいのかもしれないけれど、悩んでいる人が依

存的になります。そしてそのうちこちらの手に負えなくなる、あるいは本当の力になれなくなるので、あくまでクライアントの主体性を大事にするようにしています。もう少し言うと、テクニクとして、心というものはわからないものです、誰も見たことがないと思います。そのわからないものを何かに写すという方法を心理療法ではとります。例えば、精神分析だと親に甘えたいという気持ち強い人であれば、その治療者に対して甘えたいということが出てくる。それにはとりあわないようにする。私のやっている治療では、イメージに写していく、それは夢であったり、絵であったり、箱庭であったりします。例えばパニック障害の人が夢を見ると、洪水になっっていたりします。その夢がどう変わっていくのかというところから治療を始めていきます。これが今の心理療法です。

とところが、前近代の世界では理解が全然違うのです。例えば、私が急に何かおかしな行動をしたとすると、あれは「きつねがつく」「誰々の霊がつく」とか、「菅原道真の祟り」だとか考えたのが前近代の考え方です。つまり私の中の人格ではないのです。これが昔のオープンシステムとしての心で、個人が外に開いているという形になります。そして治療には多くの住民が参加して、それは共同体のようなものです。つまり個人の治療ではなくて、そのグループというか、その共同体というか、その宇宙の秩序を回復することが大事なのです。治療においては、悪い傷ついたものを祓うとか、失われた魂を取り戻すとかということが大事になります。

それからもう一つ大きな変化は、心理療法がアウトリーチになってきているということです。それが主体的に自ら相談に訪れて料金を支払うのが心理療法なのですが、この療法はその場でサービスとして提供されることもあります。例えば、スクールカウンセラーや、私もやっている震災の心のケアと

次は、五十年というスパンでどう変わってきたか、心病というのはどう理解されてきたか、という話をしたいと思います。対人恐怖というのは日本人に典型的な症状だといわれています。家族や親友などとても親しい人、あるいは全然知らない人なら大丈夫ですが、その中間である近所の人やクラスメイトなど「ちょっと親しい人」に対しては恐怖を感じる症状で、「私の噂をしているのではなにか」、「私の仕事を見ているのではないか」といったことを思ってしまうのです。有名な人では、夏目漱石がかなりひどい対人恐怖であったといわれています。対人恐怖の原因は「自意識過剰」といわれるものです。だれも私の噂をしていないのに「私の噂をしている」と思ってしまう、そういう自意識過剰です。日本

の場合、まず歴史的な原因が
 いわれています。江戸時代ま
 では共同体という形態が強
 かったのですが、その後西洋
 的な考え方が入ってきて次第
 に「私」というものが自覚さ
 れるようになり、日本人の中
 に対人恐怖というものが起
 こってきたのではないかと
 いうことです。もう一つは発達
 的な原因です。自意識とい
 うものは十歳くらいに生まれま
 す。皆さんも怖いものに追
 かけられる夢など見たことが
 あるだろうと思います。これ
 は思春期の特徴でもありま
 す。どうしてそういう夢を見
 るかというと、自分というも
 のができてくると自分を守ら
 ないといけないという思いが
 できてくる。そうすると、自
 分を脅かす存在を意識し、怖
 いものに追いかける夢とい
 うものも見るようになって
 くるのです。

とおこる「境界型」というも
 のです。例えばお母さんとの
 間で、「あのとときお母さんが
 私にこうしてくれなかったか
 ら…」ということをやつと言
 い続けたり、先生との間で、
 「先生がああいうふうにする
 から私はこういうふうにする
 なった」など徹底して自己主
 張するのですが責任は取らな
 い、というのが特徴です。何
 に似ているかというと、ス
 トーカーやクレマーに似て
 います。

す。このように五十年のスパ
 ンで見ても、メインの症状と
 いうのはこれだけ変わってい
 くというのが理解して頂ける
 と思います。

発達障害の人の特徴、例え
 ば私のクライアントさんの場
 合、二人でしゃべっている
 何とか会話できるけれども、
 三人以上になるとどのタイミ
 ングでしゃべったらいのか
 わからなくなる、あるいは隣
 の友人と話しているときに誰
 かから話しかけられるとどち
 らの声を聞いたらいいのかわ
 らなくなる、などといった
 ように、通常普通に「主体性」
 を選択できるはずのことがで
 きないといったことが挙げら
 れます。また、分離のなさ
 というのもすごく特徴的です。
 例えば二十代になっても親と
 川の字で寝ている、自分の部
 屋のドアを閉めない、などで
 す。

オロジカルに急に増えるとい
 うのもおかしなことです。そ
 こで我々は発達障害に對して
 も心理療法は有効であるので
 はと考えています。アドバイ
 スや指示によるのではなく自
 分で解決策を見いだしていく
 という心理療法の方法です。
 ここで、ほとんど言葉を話せ
 なかった五歳くらいの子ども
 の事例を挙げます。プレイセ
 ラピー（子どもと遊んで治療
 する）の際、ボーリングのピ
 ンを並べる遊びをしたので
 が、自閉症の子どもというの
 はずっと一列にピンを並べた
 りするとボーリングのピンが
 くっついていとと捉えたりす
 る、つまり「分離のない」世
 界として捉えるのです。我々
 は本来分離があるからこそ、
 人間関係ができる訳です。

言葉が話せるようになってき
 ました。こういうことが心理
 療法をしていると起こって
 くる。こうしたことから、心理
 療法で分離することができ
 ようになることが十分にあり
 得るのではないかと考えてい
 ます。

社会構造というのは、それ
 が強いと葛藤を必ずしなければ
 いけない。体育会系の組織
 や第二次世界大戦までの日本
 などはこうすべきという社会
 構造が非常に強い。そうす
 るとそれに納得できない人とい
 うのは非常に強い葛藤を感じ
 ます。対人恐怖などもその葛
 藤の中から生まれてくるとい
 えます。それに対して社会構
 造というものが弱まってくる
 と逆に選択を迫られること
 になります。例えば私の高校時
 代は、別室登校もなかったし
 フリースクールもなかった。
 私もいやだったが、学校に
 来ないと仕方が無い。あとい
 かにサボるか、しか選択肢が
 ない。しかし今は選択肢が多
 い。社会構造が弱まると自由
 になっていいことではあるの
 だが、逆に選択肢が広がり混

多岐にわたる選択肢が広がる

乱が広がる。そういう意味でいうと、今かなり「発達」というものに決まったものがないようになってきている、といえます。例えば十歳くらいになったら自意識ができる、というのが普通の発達なのですが、一方でもともと年齢がいかない人と自意識ができてこない人が増えています。他方で非常に早くから自意識をもってしまう人もいます。そして自己中心性みたいなものが今非常になくなってきたと思います。たぶん皆さんもそうだと思うのですが、相手によって複数のアカウントを使い分けています。そうすると、「私」というのは一人の人かというのと、そうではない。あるときはこう言い、あるときはこう言う、というようになると非常に葛藤というものが生まれてきます。

それから「世代間葛藤」というものがすごくなくなってきたと思います。我々の世代では、「お母さん」というのは禁句でしたが、今の京大生は割と平気で「お母さんが…」などと言うので、私からしたらすごくカルチャーショックです。そういう世代間葛藤というものがなくなってくると、分離ということが難しくなってきます。

昔は修学旅行で統合失調症を発症する人、というのがいました。例えば、九州へ行くや東京へ行くというのは普通の人にとっては単に移動になるのですが、そういう人にとっては別世界に行く、となつてボンツと発症してしまいます。この頃は、LINEで全部親の所に中継されているとかで、全然関係が切れている、というのがない。そうすると、そういう発症も起こりにくくなっています。あるいはまた、今ネットを通じて、自分の内面というものがなくなりつつあるのではないかというところも思います。そういうことからすると、ひよつと変わってきていて、そういうことによつてこれまで日本人に典型的な症状といわれた対人恐怖や葛藤をもつとかというものがなくなつてきて、発達障害的なあり方が世の中に

溢れてきているのではないかと考えています。そういうことを、自分としては援助やセラピーの対象にしつつ、また、

旧制奈中の思い出

狭川 宗 玄

(中10回卒)

それについて心がどうなっているかということについて今研究をしているところです。ご清聴有り難うございました。

昭和二十二年度の学制改革に依つて母校旧制奈良中学も新しく奈良高校として生まれかわった。現在、有名国立大学への合格者が県一を誇っているのは私たちには、誠にうれしい限りである。

私たちにとつて現在の奈良高校のことがよくわからないと同様に、今の奈良高校の生徒のみなさんにとつても旧制奈良中学のことは、殆んどご存知ないと思われる。そこで私の旧制奈良中学の思い出を少しばかり紹介して、どんな学校だったのか知って頂ければ幸いである。

大正時代、県庁の所在地で県立の中学校がなかったのは

奈良市だけだったので、有志の方が運動され、大正十三年に発足した。学校の年譜に依ると、入学式は当時の奈良公会堂、授業はこれも当時の奈良県立図書館二階において開始されたとある。

奈高と奈中の一番の相違は、先ず人数である。私たちは、先ず人数である。私たちの中学の時は始めは一学年二級で各々五十名、それで全校五百名。県立としては贅沢であった。次は私たちの方は男子のみ。高校は男女共学である。

校長先生は、奈良県師範学校長古川正澄先生が就任された。当時、師範学校の校長の俸給は中学より高額であった

そうだが、新しく出発した中学を県一の中学にしようという古川校長の決意が、それを覚悟で引き受けられたのだと思う。

私たちは十回生だが、その初期の雰囲気の中で勉学にスポーツにはげむことができた。

古川校長は自ら修身(今はないが)を受け持たれたが、授業の内容は、教育勅語(今の若い世代は知らないが)の暗誦と、書くことだけであった。おかげさまで全員、教育勅語を暗誦し、又見ないで書くことができた。

試験の時のカンニングは、どこの学校でもあるが、奈中では即退学であった。しかし、後で聞いたところによると、その生徒の為に、別の学校に入学できるようにと古川校長が自ら世話をされたというところで、さすがと思った。

音楽の時間は週一回あったが、受験には関係のない課目なので、みんな熱心に聞こうとせず、さわいでいたもので、あるとき、全員講堂に集められ、二時間ほど正座という、

お仕置を受けたこともあった。たまたま同窓に金春流の家元金春信高君がいたが、彼だけは学期末の試験で歌うことは免除された。それは謡の節に影響するからということだ、これは気のきいた処置だと感心したが、後でその音楽の先生が、金春信高君のお弟子さんだと聞いて、なるほどと思った。

それから、これは靴入れ箱のことだが、向かって一番上の左から右へと入れていくわけだが、その順番がなんと成績の席次順であった。併し、当時はおおらかというか、そのようなことはみな一向に無頓着であった。今なら大問題になるところだろう。

古川校長は学閥にとらわれず、適材適所、優秀な先生方を採用され、その為、みんな、親切で丁寧な基礎から、しっかりと教えて頂いた。特に私は数学が苦手であったが、資格をとって教員になられたある先生は黒板に丁寧にその要点を図示して大へんわかりやすく教えて頂き、興味を持つようにして下さいました。このよ



うなことが今の私を支えてくれていると思う。

一年生の時、多分、四月の中ごろだったと思うが、授業の前に担任の先生が「お前たちは自分の力で生きていくと思っっているかもしれないが、そうではなくて、私たちが目には見えない大きな力によって生かされて生きているのだ。」というようなことを言われた。この言葉はその時は、はっきり理解できなかったが、私の一生の大きな指針となった。

以上、ほんのすこしばかりのご紹介に終わったが、私にとって旧奈良中学の時代は一生の宝である。

奈良高校のみなさんの今後のご研鑽をお祈りする。

晴耕雨読

中村 公 巳

(総4回・昭27年卒)

現代の若い人達には、「晴耕雨読」と言っても、失礼ながら何のことか判らない人が多いのではなからうか。

八十歳を越えた私自身も「晴耕雨読」は死語同然の日常生活である。

小学生時代、父親の云いつけで猫の額の様な狭い裏庭を畝で耕し、茄子や胡瓜を植えたこともあったが、戦後、高度成長の世の中になってからは、野菜や果物はスーパーや専門店で購入求めるのが常となった。

お金を出せば何でも手に入る結構な世の中になると、今度はその時々幸せを探さなければならぬことになった。

現在の「生き甲斐」探しである。

誰しも現役時代は、勤務先の仕事に追われる毎日だが、

退職後の身になれば時間を持って余すことになりかねない。「小人閑居して不善をなす」という戒めの言葉もある。又健康を維持することも大切になってくる。

家内の勧めもあって、六十歳を過ぎてから「社交ダンス」の教室に通うことになった。それまで踊りと言えは「盆踊り」ぐらいしか知らなかったが、「社交ダンス」を始めて、姿勢を正しく保つむつかしさを痛感させられたと同時に、音楽に合わせるのにも四苦八苦した。それ以来現在も毎週ダンス教室に通い続け、心地よい汗をかいている。

もう一つ、退職後始めたのは「水彩画」である。小学生の頃から、絵を描くのは好きであったが、本格的に習い始めたのは十数年前



からである。毎月二回の教室で、先生から講評、手直しをして頂いている。一緒に学んでいる生徒達の絵画展を毎年一回開催できる様になった。

屋外でのスケッチも楽しいが、暑さ寒さに関係なく室内で好きな時に描くことも可能である。描き出すと無我夢中になって、時の経つのも忘れ、家内から食事時を告げられることも、しばしばである。

これから先、いつまでダンスや水彩画を続けられるのか、健康であることを祈る今日この頃である。

『宝相華』よもやま話

幸 場 正 明
(昭35年卒)

先日、母校奈良高校を見学させていただいた。

今更ながら初めての訪問である。校門の石段を上り詰めると、本館校舎がどっしり構えて立ち、正面玄関車寄せの屋根には校章「宝相華」が凛としてひかりかがやいている。旧校舎時代とは打って変わった環境ではあるが、ドット懐かしさが噴き出してきました。

閑静で良き環境に恵まれ、平城山丘陵からの奈良の街並みもよく眺められて嬉しく思われました。

さて、私は現役引退した後、残りの人生をゆっくりと地域のボランティア活動はもとより、奈良の史跡巡りや歴史講座に満喫して過ごしたいと思っていたところ、知人からの紹介で良きご縁に出会うことが出来ました。お寺での

ご奉仕に参加しないかというお誘いを受けたのです。

南都七大寺 西ノ京薬師寺で平成十五年師走より勤めさせて頂きました。私は、(国宝)本尊薬師三尊に見守られて、朱印処で朱印書きを担当させて頂きました。日々、諸堂のご本尊様の名前を朱印書きさせて頂くことは、誠に有難く書き手冥利に尽きます。

現在、平成の解体大修理が実施されている国宝東塔は、白鳳時代創建の姿を今に伝えている唯一の建造物です。フェノロサが「凍れる音楽」とも形容された三重塔、その解体作業が始まる時、私たち職員関係者に塔内陣はもとより上層九輪(宝輪)まで見学させて頂きました。又東塔初重内陣特別公開時、職員は拝観者の誘導整理に当たりました。初重内陣天井は、奈

良時代の彩色により荘厳されており、天井裏板や支輪板には、かすかに宝相華及び蓮華の彩色文様が描かれています。見学者への案内に『この花は極楽浄土の世界に咲いていると言われる蓮の花宝相華です。一三〇〇年前の色彩がまだよく残っていますよ』と説明して、尚且つ私の母校奈良高校の校章がこの宝相華文様を基にしてデザインされていますとチョット自慢げに話させて頂いたものです。

このかすかに残っている宝相華文様や蓮の葉を、日本画家平山郁夫画伯が模写され天井絵の復元原画を作成し色付けされたものが金堂の天井に再現されました。また同様に西塔(山崎昭二郎画伯彩色)、大講堂(大山明彦画伯彩色)にも復元天井絵が描かれて、奈良時代における寺院荘厳な様子を現在に伝えられています。

さて八年間薬師寺でのご奉仕を終えた後、平成二十四年より奈良市法華寺町の法華寺門跡にまたご縁をいただき勤めさせて頂くことになり、現在に至っています。

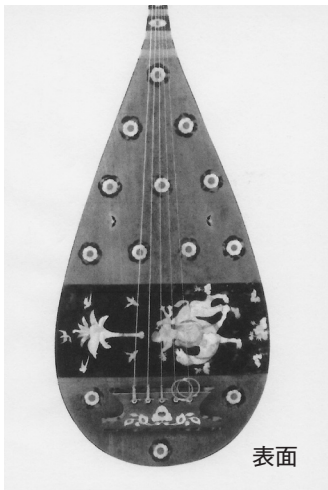
法華寺は、光明皇后が父藤原不比等の邸宅跡に、総国分尼寺として建立したのが始まりです。

東大寺を創建された聖武天皇は、国家の安寧を求めて再建に尽力されましたが、光明皇后も共に力を尽くすべく貧しい人に施しをするための救済施設「施薬院」や医療施設「悲田院」を設置し慈善活動をされました。

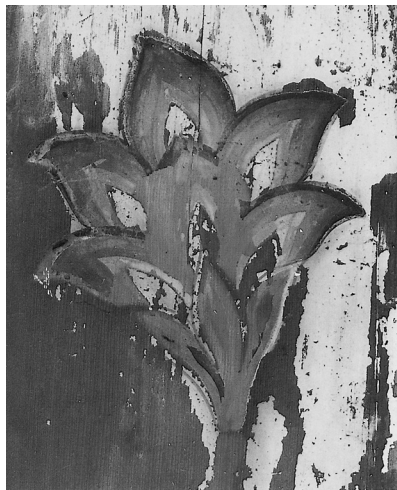
そして、本尊(国宝)十一面観音菩薩立像は、慈悲あふれる光明皇后のお姿に生き写しと伝えられています。

光明皇后は、

夫聖武天皇が崩御するとその後四十九日に遺品を東大寺大仏(盧舎那仏)に献納されました。夫の遺品を毎日目の当たりに見ることは悲しく忍び難い思いから、全てを大仏に納めてしまおうと考えたのだと言われていました。そしてその宝物を収蔵する正倉院が造られました。毎年奈良国立博物館においての正倉院展で観られる数々の宝物(遺品)も、光明皇后の想いがあったお陰



表面
螺鈿紫檀五絃琵琶



薬師寺東塔の宝相華

によるものではないでしょうか。私は、そのように考えています。

大仏に献納された遺品目録「国家珍宝帳」の中の一つに、「螺鈿紫檀五絃琵琶」があります。それには宝相華文様が螺鈿細工されています。

この螺鈿紫檀五絃琵琶の宝相華文様といい、薬師寺東塔内陣天井に残っている宝相華文様といい、将に母校奈良高

校の校章デザインの基だなぁと、感激しています。

「大和は、国のまほろば」と言われるこの奈良に住み、いづどこでも身近に体感できる、古き奈良の歴史・文化・遺跡・そして世界遺産にと、なんと私たちはこんな贅沢な素晴らしい環境に居られること、誇りに思うと共に感謝したいです。

薬師寺 礼賛

―食堂落慶記念奉納展に寄せて

命の形と其の始まりと終わり

中野 武

(昭38年卒)

はじめに、幼い頃の記憶を手練り寄せ、思い出しました。

家の門脇に、薬師寺の石標（現在は近鉄西ノ京駅の天理、橿原方面行きのホーム中程に移設されています）が、無造作に置かれていたのを…以下短編の「薬師寺メモリアルス

トリー」です。

私は、小学、中学、高校と、電車通学していましたが、当初車両はモスグリーン色の木製で、前の九条駅から徐々に近付いて来るに従って、薬師寺の塔（当時は東塔のみ）と此の電車が、線路を挟んで妙

に釣り合いが取れていた感じは面白い対比でした。其の頃の薬師寺は、近所では格好の遊び場であったし、境内の通り抜けはまるつきり自由で、年中行事の「花会式」や「鬼追い式」等は地域ぐるみの楽しみな一大イベントでした。

中学、高校と、長じて、通学の往き帰り、自らの心象風景も投影し乍ら、朝陽夕焼け、嵐に夕立、夜空と月夜、蓮華に菜の花、秋篠川にスキ等々、塔を中距離に置き乍ら、実に贅沢な景色を脳裏にプールしては悦に入っていました。中でも雪の日の朝の塔は秀逸で、感動と興奮を抑え乍らスケッチブックを携え、塔を望める界隈をうろついていた覚えがあります。今でも目を閉じると、臉の裏に古武士然とした、東塔一基、凜と佇む其の原風景を有りありと観る事が出来ます。

その後一九七六年に金堂再建成って以来、西塔、中門、大講堂が次々と再建され、本年五月には食堂（九七三年に焼失）が再建竣工に成ります。此の食堂再建にて世界遺産な

る薬師寺伽藍は、ほぼ全姿様が整い、古の姿を今に伝える寺社建造物として、今迄以上に更に極めて貴重存在と成ります。

表題の「命の形と其の始まりと終わり」は、この度の「食堂落慶記念奉納展」のテーマです。重く深く俄に答えが出せる様な題目ではありませんが、先ずは法相宗大本山薬師寺は「唯識哲学」のお寺で在る事を念頭に置いて私なりの解釈と語りで「命の形」の触りから唯識論にも係る話を少しばかり認めようと思えます。

私は「命」そのものは形（実体）として目には映らない、凝縮された空気の様なものだと考えています。「命」が宿る、或は「命」を宿す、目には見えない受け皿としての様々な仮の形（キーワードは卵、胚嚢、子宮等）に「命」が首尾良く宿り育つ。その結果、次々と親に似た姿の「生き物」が現出（誕生）し、「命」を宿す始まりと「命」が絶える終わりがあつて、その狭間に「生きるを命ずる力」に依って生

き物の生存、存在が有る。此の繰り返しが途切れる事無く螺旋状のDNAの渦（イメージです）と成って連綿と続く、此れが「輪廻天生」の正体だと考えています。又、そこには促成らない神との莊嚴で厳かな揺るぎない「約束」が何億年もの以前から有る事を認識しなければ成りません。

今回の作品展は此の「輪廻天生」を象徴的な「卵」によって表現演出し、制作致しました。

作品は語るに落ちる「不可解な解説よりも」百問は一見に如かず「答えは会場に用意されています。宝相華会の皆様方、奮つての御来場御高覧の程宜敷くお願い致します。

尚、此の作品展には後輩の金森良泰氏（昭40年卒）が、正に会場に相応しい壁画を賛助出品して下さいます。氏は、東京芸術大学美術学部 壁画科卒 現在「独立美術協会 会員、日本美術家連盟 会員、千葉大学名誉教授、春日部市教育委員等、多方面で活躍されています。

程なくニュースや新聞等に

て詳細案内が為される事と思
います。
奉納式典は五月二十六日
(金)・二十七日(土)・二十
八日(日)の三日間、奉納記
念展は六月一日(木)〜二十
四日(土)となっております。

更なる情報は薬師寺ホーム
ページをご覧ください。
終わりに、此の度は編集者
の御好意により、前号に続い
て貴重な誌面を頂き、誠に有
り難うございました。

嶋左近ゆかりの椿井城跡について

阪 口 昌 弘

(昭39年卒)



平群町は矢田丘陵と生駒山
系そして平群谷によって形成
されています。この東西の
山々には、それぞれ信貴山城
と椿井城といった山城跡が確
認されています。

これらの山城は中世に構築
されたものであり、土塁など
が現存しています。
島左近ゆかりの椿井城跡

は、矢田丘陵の南西端に位
置する南北方向の屋根上に
三〇〇m以上にわたって構築
された山城、廓くわが直線上に連
なった「連廓式山城」の特徴
を備えています。
平群谷を挟んで退治する松
永久秀の居城である「信貴山
城」に次いで大きな山城です。
椿井城址整備管理組合
例年のごとく平成二十一年
十二月平群町椿井春日神社で
収穫祭を行いました。
酒が進む中、昨今町内外の
山城ファンが増えて「椿井城



はどこにあるのですか?」「
「どうして行くのですか?」
と聞く人が増えました。「皆
さん答えられますか?」と聞
いたところ
どこにあるかは大体知って
いるが、最近行ったことがな
いから説明できないという返
事でした。
「それではみんなで見に行
こう」と言う事で二〇人位で
登りました。
しかし、雑草や身長より高
い熊笹が生い茂り、とても都
会の人が行ける状態ではな
かった。何とか頂上までたど
り着きました。

次は全員草刈機を持参して
人が歩けるようにしようと日
程を決めて実行しました。さ
すが農家のメンパーでした。
城跡の草刈実施。平成二十一
年十二月二十日、十九名で廓
の草刈、熊笹で覆われてどち
らを向いて草刈して良いのか
わからない状態でした。ひと
りが熊笹を掻きわけて道をつ
くりそのあとを草刈機で進む
かたちです。なかなか進みま
せん。それからは毎年椿井の
宝物として四〜五回はボラン
ティアで登城道の整備や草刈
りを実施しています。
「椿井城址整備管理組合」
を設立して、初代組合長とし
て平群町の活性化に役立てよ
うと努力しています。
平群町も椿井城跡保全協議
会を作り三か月に一回開催、
会長は奈良大学学長の千田嘉
博先生です。

寺に位牌が残っています。
十二歳の時に筒井順慶に仕
え、一五八二年(天正十年)
山崎の合戦の二年後、順慶が
亡くなると、秀吉の命により
筒井家は伊賀に転封になった
後、左近も筒井家を去ったと
されています。
その後、石田三成に三顧の
礼をもって仕官しました。
「治部少輔(石田三成)に
過ぎたるものが二つあり、嶋
の左近と佐和山の城」と謳わ
れた名士であり、軍師として
活躍するも、一六〇〇年(慶
長五年)に起きた関ヶ原の戦
いで戦死したとされています
が、左近の討ち死にの瞬間や
その首を確認したとされる記
録はなく、謎の多い人物です。
【資料】
島左近清興の関連人物
筒井順慶(一五四九〜一五
八四)
元興福寺官符衆徒の大和郡
山城主。大和へ侵略してきた
松永久秀と繰り返し戦うが、
織田信長の助けもあり久秀滅
亡後は大和一国を統治。山崎
合戦の際の「洞ヶ峠」には出

陣しておらず、郡山城にあって善後策を協議していて秀吉方加担が遅れたため、のちに秀吉から叱責された。

松永久秀（一五一〇〜一五七七）

大和信貴山城・奈良多門山城主。戦国期屈指の策永禄十年（一五六七年）筒井順慶・三背き、天正五年十月に信貴山城で自決。くしくもその日は大仏殿を焼いた日と同じ十月十日。王寺町の達磨寺に久秀墓と伝えられています。

石田三成（一五六〇〜一六〇〇）

天正十三年従五以下治部少輔に叙任。豊臣家五奉行一人。近江国石田村出身で豊臣秀吉側近の官僚から台頭。秀次失脚後は近江佐和山城主となり十九万四千石を領した、秀吉没後の慶長四年三月福島正則らに襲われ家康の裁断で佐和山城に蟄居させられる。関ヶ原では西軍の実質的に指揮官となり徳川家康と戦うが小早川秀秋らの裏切りも遭って大敗。十月一日に京都六条河原にて斬首されました。

三成と左近

石田治部少輔三成は、家が貧しくて近辺の寺に入れられていた。あるとき羽柴秀吉がその寺へ行ったらところ三成が明敏だったことから召し抱えてそばに使えさせていたが頻

繁に禄を増やし、やがては水口四万石を与えた。のちに三成に「さぞ多くの人数を召し抱えたであろう」と聞いたところ、三成は「嶋左近一人を召し抱えております」と答えた。秀吉は「左近は世に聞こ

平群谷の将「嶋左近」

嶋左近は中世の平群谷を支配していた嶋氏の後裔で、筒井氏・石田三成に仕えたとされる。武勇、知略に優れ、幼少期から中国の兵法書に親しみ、長刀を得意とした文武両道に優れた少年として成長したとされているが、出生の年や出身地など不明な部分が多い。

12歳のときに筒井家に仕え、1582年（天正10年）山崎の合戦の2年後、筒井順慶が亡くなり、秀吉の命で筒井家は伊賀に転封になった後、左近も筒井家を追われ、その後、石田三成に三顧の礼をもって懇願され仕官し、「治部少（石田三成）に過ぎたものが二つあり、嶋の左近と佐和山の城」と謳われた士であり、軍師として活躍する。

その後、石田三成に三顧の礼をもって懇願され仕官し、「治部少（石田三成）に過ぎたものが二つあり、嶋の左近と佐和山の城」と謳われた士であり、軍師として活躍する。

1600年（慶長5年）に起きた日本史上最大の戦といわれる関ヶ原の戦いで戦死したとされているが、左近の討ち死にの瞬間やその首を確保したとされる記録は無く、出生についても死についても謎の多い人物である。

※嶋左近の表記については嶋左近とする場合もある。



平群町イメージキャラクター「左近くん」

椿井城跡からの眺望

椿井城跡からは平群谷を一望することができ、椿井城と対峙する信貴山城があった信貴山など生物山系を見渡すことができます。また、北郭からは大和三山など飛鳥方面を望むこともできます。



椿井城跡案内図



■椿井城跡は山上にあります。城跡に至るには山道を軽登山(ハイキング)します。道の駅からの標高差は約200mあります。また、城跡探索は高低差のある斜面の登り降りが必要になります。滑りにくいシューズでの見学をお勧めします。

■椿井城跡、登城口の周辺には、駐車場・トイレはありません。駐車場・トイレは道の駅「くまがしステーション」をご利用ください。

お問い合わせ 平群町 経済建設課
〒636-8585 奈良県平群町平群西1丁目1番1号
TEL: 0745-45-1017

2012年3月

戦国平群の山城跡

嶋左近ゆかりの山城

つばいじょう

椿井城跡



平群町

椿井城跡の解説

椿井城の特徴

椿井城跡は矢田丘陵の南西端位置する南北方向の尾根上に300m以上にわたって築造された山城で、曲輪(くるわ)が直線上に連続する「連郭式山城」の特徴を備えています。平群町内では平群谷を挟んで対峙する、松永久秀の居城であった「信貴山城」に次いで大きい山城です。

椿井城は南北2つのピーク(頂部)を持ち、北側の高いピークに築かれた曲輪群が主郭にあたる考えられています。主郭から南側に向けて曲輪が連続し、途中にある山の鞍部を挟んで更に南側へと曲輪が連続しています。

南北に連続する曲輪と曲輪の間には、敵の侵襲を防ぐ「堀切(ほりきり)」と呼ばれる防御施設が5箇所設けられ、一番南側の堀切には「土橋(どばし)」が設けられています。椿井城の堀切は主郭北側を除き、登壇や横堀に展開しています。このような城郭の構造から、南方からの攻撃に防御の重点が置かれていると考えられます。

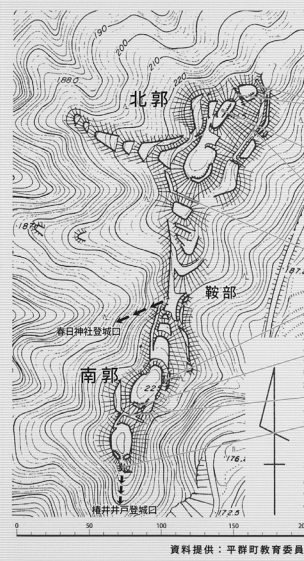
また、主郭は西側に「腰曲輪(こしくるわ)」や連続する「月形曲輪(つきがたくるわ)」を配置し、東側に「横堀(よこぼり)」を配置することで東西方向の防御が行われています。

椿井城は中世・戦国時代、当時平群谷を支配していたとされる嶋氏によって築かれたという説やそれより以前に椿井氏によって築かれたという説など諸説が存在しています。また、近年の城郭研究では城郭の規模や構造などから、信貴山城を居城とした松永久秀の勢力下で築かれた山城という説もあります。

椿井城跡見学の皆さまへお願い

椿井城跡は中世に築かれた貴重な歴史資源の山城跡で、曲輪や堀切などの城郭遺構が数多く残っています。また、城郭一帯は埋蔵文化財包蔵地となっていますが、発掘など詳細調査は未実施です。城跡の見学時は、これら貴重な城郭遺構の破壊につながる行為(掘削や発掘など)や遺物の持ち帰りなどは行わないようお願いいたします。また、堀切や切岸など急斜面での無理な昇降は、危険でもあり、遺構破壊にもつながりますので、お止めください。

椿井城跡遺跡分布図



城郭遺構の紹介

- 曲輪 (くるわ) 山を削り平地にし、堀切などで区切った部分で、遺構は人工的に削り取られた石垣や土塁などで構築されている。
- 堀切 (ほりきり) 曲輪の隔りなどで、敵が容易に登れないように人工的に削り取られたもの。
- 土橋 (どばし) 曲輪の間に連続する曲輪と曲輪の間に、敵の侵入を防ぐために設けられた土製の橋。堀切の両端に設けられる土製の橋を指します。
- 腰曲輪 (こしくるわ) 曲輪の外縁部をめぐらされた土塁で、山城の境の中では築造が見られたもの。
- 堀切 (ほりきり) 堀切を越えるために削り取られた土で作られた土製の橋。堀切の両端に設けられる土製の橋を指します。
- 石積み (いしづみ) 曲輪の外縁部の掘れを防ぐために設けられた土製の橋。堀切の両端に設けられる土製の橋を指します。
- 土塁 (どばし) 曲輪の外縁部をめぐらされた土塁で、山城の境の中では築造が見られたもの。
- 堀切 (ほりきり) 堀切を越えるために削り取られた土で作られた土製の橋。堀切の両端に設けられる土製の橋を指します。
- 土橋 (どばし) 曲輪の外縁部をめぐらされた土塁で、山城の境の中では築造が見られたもの。

えた者である。お前のような小祿の家で、どうやって奉公できようか」と言ったらところ三成は「禄を半分ずつにして二万石与えております」と答えた。之を聞いた秀吉は「君臣の禄が同じなどと昔から聞

いたためしが無い、いかにもそれほどの志なくしては、よもやお前にはつかえないであろう、思い切ったことをしたもののよ」と言った。(平群谷の驍将嶋左近 坂本雅央緒より)

米作りに徐々に惹かれて

坂口 佳 充

(昭51年卒)



私は今、米作りの面白さ、奥深さを感じている。米作りに殆ど関心のなかった高校時代を思うと不思議な気がする。

私の家は農家で、子供の頃から当たり前のように米作りをする生活の中で育った。小学生頃までは遊び半分での手伝いをしたが、その後は農作業に係わることはなくなっていた。

高校一年に父が亡くなった後、母親が日常の管理を、田植え、稲刈りなどの繁忙期には親戚から手伝いに来てもらうことで乗り切っていた。私が大学に入ってから、トラク

タ、コンバインを購入し、機械作業を私が担うことで親戚の助けを借りずに家だけで行うようになっていった。大学を卒業し、自宅から通勤できる範囲で就職ができたので農業を続けることができたが、繁忙期に休みが殆どつぶれることや、限られた時間で作業を終えてしまわないといけないことなど、この頃は疲れの印象が残るばかりであった。減反政策の影響もあり、徐々に耕作面積は減っていたが、機械作業を担当するだけで、普段の耕作管理はすべて母親任せであり、米作りそのものに関心はなかった。さすがに稲刈りでの収穫の喜びは感じたが、将来的に農業を続けていくことは想定もせず、やがて自然になくなっていくものであると思うていた。大学での研究の延長線上で仕事が

できる企業に就職したこともあり、この頃は研究開発の仕事に極めたいと思っていた。状況が変わったのは、二十年以上が過ぎ、母が七十五歳でなくなった後になる。母は最期まで農作業を続けていた。苦勞してきた母親のことを思うと、米作りをやめてしまおうという考えは全く消えていた。できるだけそのまま引き継いで続けていきたいと思った。それまで機械作業の手伝いをするだけで、水管理の仕方等もほとんど分からず、手探り状態でやることになった。近所の人たちとのちよつとした話の中から、少しずつ覚えていくとともに、経験を積んで馴れていくしかないと思つて進めた。ただ、一つ一つの作業の意味を知るとともに、米づくりの面白さを感じるようになっていったのもこの頃である。

全国的な米生産量の斬減の打開策として、おいしいお米の栽培が着目されるようになってきていた。奈良県産で主に生産される銘柄ヒノヒカリも五年ほど前に特A米に選定された食味値の高い品種である。何年か前、試しに自分で作った米で依頼分析に出してみると、誰もがおいしいと感じるレベルの点数を取ることができ、興味が増した。理化学分析による食味は、主にタンパク質、アミノ酸、脂肪酸、の数値で評価される。アミノ酸は品種、脂肪酸は鮮度の影響が大きいので、栽培技術としては肥料の使い方やタンパク量をどれだけ下げられるかにかかってくる。出来上がった米の評価は一年に一回できるだけなので、まだまだどのようにコントロールしていけばよいのか模索しているところであるが、田んぼ毎に少しずつ育て方を変えたりして試行錯誤している。手伝いとしてはではなく、自分の好きなように耕作することで米作りの面白さを感じるようになり、少なくなった家の田んぼだけでなく、休耕田も借りて耕作を増やすようになってきている。

また、新たな取り組みとして酒米造りに関わるようになって、今年で三年目になる。これは、西の京の酒屋さんが主催する日本酒を愛好する会の人たちが母体となって、自分たちで作った酒米で自分たちが飲むお酒を作ろうというプロジェクトのお手伝いで、参加会員は一〇〇人を越えている。近所の米作り農家が集まって、休耕田の提供、作業の指導、手伝いをしている。初蒔き、田植え、稲刈り、雑穀作業には多くの会員さんが参加され、お酒になるのを夢み、熱心にそして楽しみながら作業をされている。耕作田は、唐招提寺、垂仁天皇陵に間近い場所であり、観光で散策される人も多い所であるが、これらの作業時には普段と違う賑やかさが感じられる風景となり、地元の人間として嬉しい。

日本農業の課題の縮図として、私の周りでも少しずつ米作りから撤退していく家が目につくようになってきている。奈良という歴史的財産があり、多くの人が知っているところに住んでいるものとして、米作りは景観保全や文化の維持としての使命を持つ側

面も大きいと感じている。少
子高齢化、人と人との関わり
方の変化など、時代が確実に
変遷していく中で、米作りの
中から新しいものが見えてく
ればと思う。

職種は変わったが、まだし

ばらくは研究に関係する仕事
を続けるつもりなので、週末
農業での取り組みが続く。退
職後の専門化への準備をしな
がら楽しんでいきたいと思っ
ている。

奈良に帰ってきて

加藤 真治

(平2年卒)

奈良に帰ってきて六年にな
ります。高校を卒業後、二十
年奈良を離れていました。高
校時代は、大人になると奈良
を出ていくものだと思ってい
ました。そう思っていた人も
多い高校だったのではないか
と思います。私自身、実際に
二十年間奈良を離れて暮らし
ており、その通りの生活を
送ってきました。最近、よく
感じるのですが、サラリーマ
ン家庭の子が多い高校だっ
たなあと思います。私自身も
大阪に勤めるサラリーマンの
父親に育ててもらいました。

商売など継がないといけない
家や会社はありませんので、
将来働くのは大阪か東京か、
場所は分かりませんが奈良で
はないなあとはんやり思っ
ていました。
そんな私でしたが、今は奈
良県内を駆けずり回りながら
仕事をさせていただいていま
す。ご存知の方も増えてきて
いるかと思いますが、奈良県
をホームタウンとするプロバ
スケットボールクラブの『バ
ンビシャス奈良』の運営をさ
せていただいています。発足
して四年目。認知度も集客も

まだまだこれから頑張ってい
かないといけないレベルです
が、昨年(二〇一六年)の秋
からスタートしたBリーグに
も所属させていただき、二部
にあたるB2でリーグ戦を
戦っております。

私は、高校を卒業後県外の
大学へ進学し、大学院を修了
後、銀行に就職しました。両
親から教えられた堅実な生き
方を実践したように思いま
す。大阪で一年働いた後、東
京に転勤になりました。高校時代
暮らしていました。高校時代
に将来何の仕事をしているか
は想像していませんでした
が、なんとなく思い描いてい
た場所で働くことになってい
たように思います。

バスケットボールは、中学
から始め、高校、大学と続け
ていました。社会人になって
からも遊び程度で続けてお
り、もっぱらビールを美味し
く飲むための運動といったと
ころでした。バスケットボー
ルを仕事にするというのは、
思いもよらなかつたことで
す。ただ、学生時代の就職活
動をしているところにバスケッ

トに関わる仕事であるのだ
ろうかと実際にちょっと考え
たことがあります。極々一
握りの人が選手として実業団
に入社してプレイを続けてい
ます。しかしそれは飽く迄
一握り。それ以外はと言え
ば、学校の先生になる以外に
バスケットボールに関わる仕
事はほとんどないと言ってい
い状態でした。実際に私の周
りのバスケットボールが大好
きで、バスケットボールに関
わっていないと生きていけない
と言っていた人は、大半が学
校の先生になることを目指
し、実際に教員になってバス
ケットボールの指導者になっ
ています。私自身そこまでバ
スケットボールに関わってな
ければいけないと思っていな
かったのですが、普通に企業に就
職しました。

大学では体育会のバスケ部
に所属していたので、大学ま
では結構真剣にやっています
。定期戦をする大学もあ
り、相手の大学の選手との交
流でバスケット仲間もできま
した。そのとき知り合った相
手チームの一つ上の先輩に、

バスケットを仕事にしようと
続けていた人がいました。大
学に残りながら大学の後輩の
コーチをし、国立大学ながら
関東学生リーグの二部リーグ
まで昇格させる活躍をした
り、アメリカにコーチ留学し
て帰ってきたら、実業団のプ
ロのコーチとしてキャリアを
スタートさせた人がいまし
た。一流の選手ではない中、
学校の先生になる以外にバス
ケットボールを仕事にしてし
まった人でした。応援する一
方で羨ましくもあったのを覚
えています。九〇年代後半か
ら二〇〇〇年過ぎ、バブル後
のリストラが盛んに行われた
時代です。企業スポーツが休
廃部を繰り返した時期でもあ
りました。バスケットボール
も多分にもれず休廃部が相次
ぎます。この先輩も当時リス
トラに会いました。成績で契
約が終わったのではなく、そ
の実業団チームがプロのコー
チを雇わない方針に換えたこ
とから契約がなくなりまし
た。

その先輩が、今から十数年
前に始まったバスケットボー

ルのプロ化に向けた勉強会のグループに入っていました。二〇〇五年に始まったプロバスケットボールリーグ『bjリーグ』の前身の勉強会グループです。当時私も東京におり、その先輩からプロ化に向けた準備の話を聞いていました。その先輩は、自身の地元である仙台でプロバスケットボールチームを立ち上げる準備を始めました。プロ化の話は、バスケットボールをやってきた私にとってもワクワクする話でした。二十数年前、サッカーがプロ化し、jリーグがスタートしました。jリーグが始まる前は、野球以外の球技スポーツはどの競技も同程度のメジャー感で、メディアの取扱いも基本的に大差の無いものでした。それが、jリーグが発足したところからサッカーが一気にメジャースポーツへ変貌し、プロ野球と並ぶ二大メジャープロスポーツに成長しました。私自身もサッカーを観て楽しんでいましたが、サッカーをやっていた人が羨ましくもありました。バスケットもプロ

化すればいいのにと思いながら、二〇〇〇年を過ぎてでも一向にプロ化の話が進まないバスケットボール界にがっかりもしていました。転機が訪れたのは、今から十二年前。二〇〇四年十一月二十四日に『bjリーグ』の発足の記者会見があり、テレビのニュースなどでも映像が流れました。その中にその先輩が仙台のチームの代表として映っていました。本当に始まるのだと心が躍ったのを覚えています。すぐにその先輩に電話でお祝い伝えました。心が躍る一方で、銀行員だった私は経営的な計画はどうなっているのか、事業としてちゃんと成り立つ計画を立てているのかなどが心配でもありました。bjリーグが考えるリーグ全体の事業計画や仙台のチームの事業計画について第三者的に興味があり、その先輩に根掘り葉掘り聞いてしまいました。その先輩から仙台のチームの立上げを一緒にやらないかと誘われたのはその時です。プロスポーツチームの運営をするというこ

とは起業するということでもあり、自分自身がそのような生き方をするとは考えていませんでした。断ろうと思いつつ、中途半端にいろいろなことを聞いてしまったので、ちゃんと調べて断ろうと、bjリーグの準備の状況などを詳しく聞くことにしました。そして半年後、気が付いたら、私自身が銀行を辞めて仙台に行き、その先輩と仙台のチームの立上げをしていました。仙台に行ったときは、日本のバスケットボール界をプロ化に変えていくと、気負った気持ちで行ったのを覚えています。二〇〇五年十一月、bjリーグがスタートしました。開幕戦に四、〇〇〇人を超えるお客様が来場し、仙台市体育館という国内でも有数のアリーナが満杯に近い状態になりました。来場したお客様の数に感動したのをついこの前のように覚えています。プロ化への第一歩を踏み出したことに大きな喜びを感じました。しかし、このbjリーグは、トヨタ自動車や東芝、三菱電機などの大企業の

実業団チームをプロ化に巻き込むことができずにスタートし、バスケットボール界が一致団結したかたちでのプロ化のスタートにはなりません。プロ野球やjリーグに匹敵するようなプロリーグはまだまだ程遠い状況のプロリーグでした。バスケットボール界を変えると気負って仙台に行った私でしたが、仙台で六年間プロスポーツチームに関わって感じたことは、プロスポーツの存在する意義は、もっと別のところにあるということでした。二〇〇五年は仙台にとって大きな変わり目の年でした。『楽天ゴールデンイーグルス』が発足した年でもあり、以前からあるjリーグのクラブ『ベガルタ仙台』とプロバスケットボールチーム『仙台89ERS』とで仙台に三つのプロスポーツチームが出来た年になります。楽天イーグルスが出来ていたことが大きかったとは思いますが、仙台のメディアはこぞって三つのプロスポーツチームのある街として、大々的に記事を書き

ました。三つのプロスポーツが東京・大阪を除く地方都市で最初に揃ったのは仙台です。『地方都市で、最初に三つ揃った』のが仙台というのが、仙台市民感情的にたいへん嬉しかった出来事になっていました。仙台の街は、東北の一番の街であり、その誇りも持っている街です。一方で、他の地方都市（札幌や広島など、二十年以上前からある政令指定都市など）と比べるとどこと比べても最下位になることが多く、全国的に比べると田舎だという感情もありました。自信にだけ満ち溢れている街というわけではなかったように思います。それが、『地方都市で、最初に三つ揃った』ということは、仙台市民にとっては、大きな自信につながったと思います。当時、仙台のメディアがこぞって『三つプロスポーツが揃う街』と報道したのは、そのような仙台市民感情に刺さる大きな出来事だったのだと思います。仙台と言えば、牛タン、笹かま、伊達正宗というのが三つのお国自慢でしたが、今、仙

台市民に「仙台と言えど？」と聞くと、この三つに追加して、「プロスポーツの街」と答える人がきつといると思います。プロスポーツが、自分の街のお国自慢の一つに加えられるということからも、自分の街への自信を深める一つの要素になっています。プロスポーツというものが仙台市民感情の中に無くてはならないものに昇華されていく様子を仙台で暮らした六年間の間、目の当たりにしてきました。

東北にいと、関西弁のまじやべっている関西人は非常に少なくなります。そもそも東北に関西人が少ないこともあり、東北の人からは訛っていると思われまます。しかし、なかなか関西のイントネーションが抜けない私は、どこに行ってもどちらのご出身ですか、と尋ねられ、奈良の話をよく聞かれました。東京で暮らしてときにはそれほど意識することではなかったのですが、仙台で暮らして、自身のアイデンティティに奈良というものが土台にあるこ

とを強く感じる機会をいただいたと思います。奈良は大仏と鹿と、そのほか何があるのですかと聞かれ、答えに窮する自分に少し情けなさを感じたことと、仙台の人たちがプロスポーツチームが出来たことで自慢が一つ増えたことを目の当たりにしたことで、奈良にもプロスポーツチームが出来ないかと思い始めるようになりました。

二〇一一年一月から奈良にプロバスケットボールチームを創る会を発足し活動を始めました。二〇一一年三月十一日。その活動の最中、東日本大震災がありました。奈良にチームを立ち上げようと言っている場合ではなくなりました。仙台のチームの経営がたいへんなことになり、チームは活動休止、選手も一旦解散という事態に陥りました。震災のあった三月はシーズン途中だったため、シーズンシートをご購入いただいた方々に払い戻しの手続きのご連絡をさせていただきました。当時はチームを復活できるかどうか分からない中で

したが、電話口で、シーズンシートの購入者から聞いた言葉は、「この払い戻しを受けなければ、チーム復活に役立ちますか？」というものでした。当時、電気・ガスなどのインフラが戻っていない地域もあり、SNSなどの通信手段もファンの方どうしで使われていたわけではなかったと思います。ファンの方たち皆さんで払い戻しを受けないようにしようとしたものではなく、個々にご連絡を取った方たちが、個々に答えてくださった会話です。八割以上の方々が同様の電話のやりとりで、払い戻し固辞されました。中には津波被害がひどく避難所生活をされていた石巻の方から同様の電話のやりとりがありました。震災後、半年間チームの復活に向けた活動をしていたのですが、こんなに仙台89ERSのことを愛してもらえていたのだと痛感する日々でした。

二〇一一年十月、仙台89ERSが復活できるのを見届け、奈良に居を移して奈良にプロバスケットボール

チームを創る活動に専念し始めました。二〇一二年七月、bjリーグへの参入が決まり、二〇一三年七月、バンビシヤス奈良のチーム結成し、二〇一三―二〇一四シーズンからbjリーグへ参戦を開始しました。今シーズンで四シーズン目。二〇一六年からは、大企業の実業団チームもプロ化に巻き込んだ『Bリーグ』が新たに発足し、B2から参戦しています。

うなプロスポーツチームになれるように、そして、県民の多くに無くてはならないと思ってもらえる存在になれるようにバンビシヤス奈良を創っていきたくと思っています。奈良から多くの人材が輩出して県外や海外で活躍しています。しかし、奈良にまた戻って来たいと思ってもらえるようにプロスポーツがその一助になれば嬉しいと思っています。

「陸上競技部で過ごした日々」

勝山 知紀
(平22年卒)

私が高校時代を経て良かったと思うことはたくさんありますが、特によかったと思っ

ていたことは部活動を一生懸命したことです。私の高校生活はほとんど部活動に捧げたといつても過言ではありませ

環境が変わりました。今までは自分たちで練習のメニューを作って行っていました。コーチの練習メニューを取り組んだり、自分よりも強い先輩の面倒をみたり、色々と考えさせられた時期でした。辛いこともありましたが、練習に使った奈良公園の景色や、雨の中ずぶぬれになってみんなで走ったことはとてもいい思い出になっています。

私は長距離バート長だったので、駅伝チームを強くすることを考え、結果として近畿大会に出ることができました。しかし、私は補欠でした。練習は精一杯取り組みましたが、結局後輩には勝てませんでした。自分が走れないチームを強くすることはなんととも言えない悔しさがありました。チームとしてそこまで勝ち進めたことはとても誇りに思います。

また、駅伝は団体戦ですが、陸上競技は基本的に個人戦です。最後の大会は後輩に負け引退しました。しかし、後輩は私のことをまるで自分のことのように応援してくれま

した。負けはしましたが、ラストランで自己ベストの記録を出すことができ、清々しく引退することができました。

今、私は大学院を卒業し、民間の会社でシステムエンジニアをしています。部活動を一生懸命していたことで筋持久力もあり、長時間椅子に座ることができています(笑)。

冗談はさておき、辛い練習や環境を乗り越えてきたという自信は確実に今の私を支えているものでしょう。また、一緒に戦った部活動の仲間に限らず、たくさんの人に支えられてきたということは高校を卒業してからも更に、じわりじわりとわかってきたことでもあります。

まわりの人への感謝の気持ちを忘れずに在校生のみならずには高校生活をぜひ満喫して欲しいです。最後に、こんな駄文を読んで頂きありがとうございます。みなさんの未来が輝くよう、実りのあるものでありますように願っています。ファイト！

「高校生活で培った時間の使い方」

小林 拓 矢

(平22年卒)

私は高校生活を通じて、普段の生活に「メリハリをつけること」の重要性を学びました。

高校生の時、バスケットボール部に所属していた私は特段勉強ができたわけでもなかったため、勉強と部活の両立に非常に苦労していました。

苦労していた要因としては、単純に時間的に制限されていることもありましたが、それとは別に問題集を解くにしても集中せずに時間をかけたり、部活中の筋トレでも友達とダラダラ話しながらしたりするなど、時間を効率的に使えていなかったことも大きな要因でした。

しかし、周囲の人を見ると同じ時間かけていても私以上の成果を出している人はいます。才能といえばそこまでか

もしれませんが、この差は何なのかについて自分なりに考えた結果、成果を出している人は時間の使い方が上手いという結論に至りました。

その差を埋めるために、私が実行したことが「メリハリをつけること」でした。時間をはかりながら問題集を解くようにしたり、部活中の筋トレでも時間を区切って筋トレと談笑の時間を繰り返したりするなど、とにかくONとOFFを意識するようにしました。

その結果、少しずつですが時間に対する意識が変わると同時に効率的に物事を運べるようになり、自己管理能力や集中力を身に付けることができました。最終的に、大学受験では志望校にも合格することができましたし、部活でも自分の中での目標を達成する

ことができました。

現在、私は社会人一年目を迎えています。学生時代より一層の時間意識が求められています。そうした中で私は高校生活で学んだ「メリハリをつけること」の重要性を常に意識し、日々の仕事に取り組みたいと考えています。

皆さんも是非一度、時間の使い方について考えてほしいと思います。ダラダラと過ごして時間を無駄にしているませんか？一つのことに夢中になりすぎて他のやらなければならぬことが疎かになっていませんか？勉強や部活だけでなく、学校行事や遊びなど高校生活の間でしか経験できないことがたくさんあります。

どれかを疎かにするのはなくどれも手に入れられるようにメリハリをつけ、集中するときは徹底的に集中し楽しむときは徹底的に楽しむことで、自身の詰まった充実した高校生活を送ってください。

「奈高で得たかけがえのない仲間」

山本 英実

(平22年卒)

二〇一〇年に奈良高校（以降、奈高と省略）を卒業いたしました。山本英実と申します。高校に入学した頃から約十年が経とうとしており、時の流れの早さに驚きが隠せません。

さて、私の奈高生活を振り返りますと、朝から晩まで、本当に部活動漬けの毎日をごしていただきました。私は、バレーボール部に所属していたのですが、小学校からバレーボールをずっと続けており、いろいろな年代でバレーボール部を経験してきました。

その上で、奈高のバレーボール部らしさを考えてみると、「自分たちで考えて部活動を運営する」ところに特徴があったように思います。自主創造の名のもと、基本的には自分たちでチームビルディングから練習までを考えてお

りました。

そのため、同期九名とは、体育館の幕裏や、剣道場へと続く連絡通路で、よく話し合いを行ったものです。練習の話だけでなく、お互いの長所や短所もきちんと伝え合い、皆で切磋琢磨しました。

この自分たちで運営するというスタイルのおかげで、表面的な関係だけでなく、深い関係を築けたと思います。同期で非常に仲良くなり、みんなでお出かけ、よく奈高から新大宮への帰り道を歌いながら帰ったりしました。

卒業後、同期九名はそれぞれ違う大学に入り、違う道に進んでいます。しかし、今でもとても親しくしており、旅行に行ったり、年末に一度は必ず集まったりしています。それ以外にも、何かあれば連絡を取り合い、相談し合い、

一緒に怒ったり笑ったりします。

私は、大学の部活動での人間関係に悩んだときや、恋愛、就職活動などで悩んだときに、同期に相談しました。みんなわが身のように悩んだり、共感してくれたりしました。

自分のことをきちんとわかってくれていて、受け入れてくれる存在がいる。それだけで人間は強くあれるものです。これほど濃く、今でも続く関係の仲間が出来たのは、高校の部活動だけでした。かけがえのない財産を奈高で手に入れることが出来ました。

みなさんも、今は奈高生活を満喫していることと思います。ぜひ、そのコミュニティの人を大切にしてください。社会人になって思うのは、高校での生活ほど濃く、深いものはないということです。

特に奈高は、自主創造の学校です。自分たちで創意工夫をして取り組んでいける自由さゆえに、そこで関わった人との繋がりもさらに濃いものとなります。私も、これから

もこの仲間を大切にして、自分の夢に向かって強く挑戦していきたいと思います。

大阪支部だより

お香のよろこび



吉村 信子

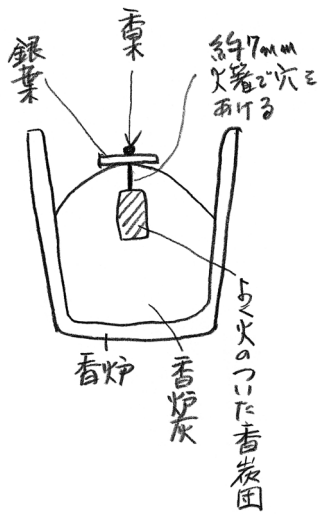
(昭46年卒)

講座に参加させていただいて十六年、お香を聞くという風雅な時を持ち、その後の総会である。という事で、この日は二回も楽しい行事があり、私にはとても贅沢な一日なのである。

大阪支部の総会は、毎年七月の第三金曜日に、上本町のシェラトン都ホテル大阪で開催される。例年、御来賓を迎え、諸先輩方から後輩達まで大勢のご参加を得て、しばし楽しい交流の時を持つ。会の最後に「青丹よし奈良の…」と校歌を歌い始めると、なつかしい大和の風景が蘇る。この同じ日の午前中、私は聞香のお稽古をしている。香道御家流直門師範の東堯霞先生の

正倉院御物の中に蘭奢待という名の香木がある。香名の中に「東大寺」という字がかくされている天下一の名香は伽羅だと言われている。香木とは、ベトナム、タイ、インドなど東南アジアのごく限られた地域で、様々な外的要因によって木質部に樹脂が凝結し、樹木自体が枯れていく過程で熟成されたもの（松栄堂の記事より）で長い長い年月

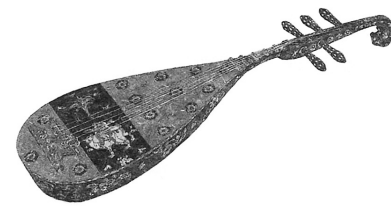
をかけてできたものである。お香の歴史は古く「日本書紀」には、淡路島に流れ着いた流木を、薪として燃やしたところが芳しい煙は遠くまで流れ、朝廷に献上した、とある。飛鳥に都があった頃の話である。仏教作法に使い始め、やがて聞香という日本独自の文化として、室町時代に確立したといわれている。香木は伽羅、羅國、真那伽、真南蛮、寸間多羅、佐曾羅に分類し六国香と呼ばれている。大変貴重な香木は、非常に小さく削り、銀葉という雲母の台に乗せ、あたためられて上がる香りを楽しむ。(図参照)



ら、ゆっくりと息を吸い込む。えも言えぬ香りが心にしみわたる。初めてお香を聞いた時、この世にこんな香りが存在するのかと、ショックを受けた。戦国時代の郡上八幡領主「東常順」(とうつねより)を先祖にもたれる先生は、代々伝えてこられたお香を毎回聞かせて下さる。何種類かのお香を聞き、出た順を当てる優雅な組香、その数種類が、それぞれにわずかだけれど、決定的に違う香りを持つ。香道とは何と奥が深いのかと今も感動が続いている。時に名香を、お正月には後水尾天皇の勅名香をも出して下さる。その時は、その香名を入れて和歌を詠む。百人一首は子供の頃から親しんでいたし、高校時代古今集をはじめ、古典を勉強

した事に、今更ながらほっとする一瞬である。お香は香りがかぐとは言わず、聞くと言う。五感を集中して、ただ無の境地で、鼻の奥深く吸い込んだ香りを、頭と心の奥深くにしみいるように感じる。その高い精神性を聞くと表現するのではと言われている。香りを記憶する為に、そのイメージを自分なりのことばで書き留める。特に組香では四季の風景や、季節の行事を大切にす。奈良に育った私には、美しい四季の風景があたりまえの存在であったし、桜も新緑も紅葉も大好きだった。しかし、お香を始めてからは身のまわりのわずかな季節のうつろいを、もっともつと深く心に感じる様になった。自分でも本当に驚く。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども、風の音にぞ驚かれぬる」というあの心境なのである。春は桜に心躍り、花吹雪に手をさしのべ来年もと願う。夏の間はすっかり忘れていたのに、晩秋になり、濃いオレンジ色の紅葉を見つけると、再び桜に巡り会ったうれしさを

感じる。お香は、書や茶、絵など多くの芸道の上に立つ総合芸術だと先生はおっしゃる。香木は人の手では作れない。偶然と長い年月の結果としてのお香。奈良は、お寺、神社、自然の風景など、すばらしい文化の宝庫である。国宝があまりにも身近にありすぎて、通りすぎてしまっている。奈良の都に蘭奢待があるように天下の至宝に満ちた奈良を一層愛し、美術や歴史を巡りたい。もし、若い方が私のつたない文を読んで下さるならば、読書に勤しみ、展覧会にも足を運び、歴史や文化に興味を持ってほしいと願う。いつの間にか頭の片隅に残った知識が、何かの機会に「ああ、



あの時の：」と点と点が線となって結びつく。それがお香は総合芸術と言われる意味なのだろうと思う。忙しい日々の中に、ふっとおとずれる一瞬の心のゆとり……。この原稿を書いている今、庭のナンキンハゼの紅葉はほとんど散って、芝生の上に彩りを添えている。落葉かきも「ああ大変」ではなく、かさかさという音を楽しみながらする。そう思えることこそが、私にとってのお香の存在であり、お香のよろこびなのである。

大阪支部総会・懇親会のご案内

例年どおり宝相華会 大阪支部の総会・懇親会を左記の通り開催します。大阪支部会員の皆様には、五月下旬ごろに学年役員様から、はがきでご案内をいたしますが、前もってお知らせいたします。多数の会員の皆様のご出席をお願いいたします。

記

日時：二〇一七年 七月二十一日(金)
 受付：十七時三十分
 十八時～二十時三十分
 場所：シエラトン都ホテル 大阪 4階 浪速の間

東京支部だより

寶相華会東京支部総会

開催される

支部長 阿部 洋己

(昭31年卒)



平成二十八年十一月十二日、快晴に恵まれた空の下、例年通り、日比谷公園に隣接した法曹会館で、会員八十名が相集い、定刻の十五時半から開催された。折しも日比谷公園は秋爛漫、菊花展が盛大に催され、大輪の花々が見事に咲き誇り、深まり行く秋の空に映えて、その美しさを競うが如くであった。

総会は谷口律子さん(高52年卒)の司会で始まり、冒頭、会員物故者への黙祷の後、阿部洋己支部長(高31年卒)の

開会挨拶。本年もより一層、

会員の増強、親睦を深めるた

めの施策を実施したいとの話

に引き続き、来賓の紹介が

行われた。奈良高校からは今

年の新学期から校長に就任さ

れた安井孝至校長先生、総務

担当の小林和博先生のお二

人。寶相華会本部からは藤原

正義副会長、橋本武一副会長

兼大阪支部長のお二人。わざ

わざ、この日のために関西か

らお越しいただきありがとうございます

ございました。

続いて、規定により阿部支

部長を議長に選出。ただちに

議事の進行に入った。第一号

議案 本年度活動報告及び会

計報告が事務局の菅原潤一さ

ん(高44年卒)及び玉越靖彦

さん(高46年卒)から行われ、

本年度の首都圏近郊散策の集い、親睦ゴルフ会などの行事の報告、また、役員会の討議、決定事項の報告の後、会計報告、川畑博さん(高38年卒)の会計監査報告が行われた後、質疑を経て満場一致で承認。

続いて第二号議案 来年度

活動計画及び予算(案)につ

いて一括討議で同様に事務局

から説明、また、来年度支部

総会は恒例に習い、十一月の

第二土曜日に当たる十一月

十一日に開催することも決

定、質疑の後、満場一致で承

認を得た。

引き続き、第三号議案 役

員改選に移り、原案が議長よ

り示され、満場一致で以下の

通り、承認された。退任役員

は猪岡香さん(高30年卒)、

栃藪輝子さん(高32年卒)、

伊達悦子さん(高32年卒)、

上田蔵さん(高33年卒)、紺

谷知代子さん(高45年卒)の

皆さんで、これまでのご尽力

に改めてお礼申し上げます。

合わせて退任役員を除いた現

役員は現役職をそのまま引き

継ぐことで、来年度も一層の

支部活動の強化に努めて参る所存です。

その他、質疑応答で東京支部のホームページを奈良高校、本部とも連動した形でより発展させられないかが論じられ、検討課題とした。すべて総会の議事が終了。

引き続き、来賓挨拶。先ず

安井校長先生からご祝辞を兼

ねて現奈良高校の状況をお話

しいただいた。進学状況は関

西国公立に一二〇名の合格。

東洋経済誌「高校力ランキング」で全国、十七位とまさに

ブランド力と言って良いほどの活躍を見せてくれた。一方、

部活動でもバスケット、アー

チエリー、バトミントンがイ

ンター杯に出場し、文化面でも写真、美術、コーラス、囲

碁・将棋同好会、百人一首カルタ会、書道などでも全国大会で活躍。また、特筆すべき

は野球で昨年はベスト4、今年

はベスト8と健闘したが、その

応援に全校生徒が駆けつけ、

校歌の声の大きさはどこよりも大きく、奈良高校生が

自分の学校が大好きで、愛校

心に満ちた姿に涙が出るほど

嬉しかった。一方で諸先生からは、現在の奈良高生は大人しくて、授業がやり易くなったと言われた。高校生は授業が勝負、型にはまらないで自由な雰囲気先生を超える人材に育って欲しいと話された。

奈良高は平成十六年度から

スパーサイエンス・ハイスクールに指定され、第四期目に挑戦。夏休みを利用してシ

ンガポールに遠征、英語で発表を行うなど、奈良高の伝統

である「自主創造」の精神で何事にもとらわれない「個の

確立」を目指して欲しいとご

挨拶を締めくくられた。

続いて藤原副会長が所用で

お出でになれなかつた小山会

長に代わってご挨拶。

平成三十年が寶相華会発足

九十年に当たり、記念事業として今から取り組む内容を披

歴された。一番目の事業として慰霊塔に恩師、会員物故者の名前を入れる。

二番目が会員名簿の整理。

三番目が母校跡記念碑の化粧

直し。四番目が同窓会資料室

の整備との話を伺い、改めて

会の歴史の重みを感じざるを得なかった。

いよいよ、待望の第二部

記念公演「プチサロコンコンサート」と題したバリトン歌手、東京二期会会員の星野淳さんの登場である。星野さんは奈良高54年卒で南極観測隊員を志して北海道大学の物理に進学するも音楽との出会いによって、進路を変更し、北海道教育大学特設音楽科を卒業。東京二期会オペラスタジオ第三十四期研究生を終了し、優秀賞を受賞。それを機に日本のオペラ界において現在の不動の地位を築きあげられています。国立劇場での数々の主役に抜擢されて活躍され、我が奈良高校が誇る日本を代表するオペラ歌手です。

「椰子の実」、「初恋」、「菩提樹」となじみの深い歌曲から始まり、その歌声に圧倒されてのスタート。ピアノ伴奏は星野さんとコンビを組まれている比留間千里さん。「トステイのセレナータ」「フィガロの結婚」と続く辺りでは最高の盛り上がりで全員、大

興奮。絶妙の解説と裏話を挟みながらの熱演に星野魔術に酔いしれて、「カルメン・闘牛士の歌」になったところで、北野寛子さん(高31年卒)の飛び入り。さすが北野さん、芸大出身だけあって、星野さんのサポートよろしく、現役オペラ歌手との二重唱。まさに圧巻のサプライズであった。「マイ・フェア・レディ」、最後に「ラ・マンチャの男」ご存知の松本幸四郎が昨年一二〇〇回公演を行ったミュージカルで「見果てぬ夢」を朗々と歌い上げ、大喝采のうちを終了となった。

第三部 懇親会は会場を大宴会場に移しての開催。司会を志々目昌史さん(高48年卒)が担当。冒頭、乾杯の音頭は支部顧問の吉岡克己さん(高30年卒)にお願いして懇親会がスタート。星野さんの歌声の余韻が耳に残る中、懇親の輪が四辺に広がり、同じ学び舎で過ごした連帯感で賑やかに、楽しい宴の様相を呈したところで最後の大イベント、校歌合唱の時間となった。星野さん先導のもと、全員で「青

丹よし奈良の 春日山まぢちかく」と歌い出し、最後の三番まで歌い切り、別れを惜しみつつ、お開きとなった。

会を盛り上げていただいた星野さん、遠路、お越しいただいた安井校長先生、小林先生、本部の藤原さん、橋本さん、お世話いただいた役員の皆さん、お出でいただいた会員の皆さんに感謝申し上げます。支部総会の報告に代えさせていただきます。



「湯島聖堂と神田明神周辺の散策ウォーキング」

東京支部 杉 美知男 (昭32年卒)

東京支部の同好会「首都圏近郊散策の集い」(#28)は十月十五日(土)に実施しました。久しぶりの秋晴れに恵まれ、JR御茶ノ水駅聖橋口から先ずはニコライ堂の愛称

のちに武家の師弟の最高学府・昌平黌しやうへいこうも併設された学びの地である。うっそうとしげる木々の中に、巨大な孔子像や回廊に囲まれた大成殿などが立っている。ここから本郷

で親しまれている「東京復活大聖堂教会」に向かう。聖堂拝観(見学)の時間と合わなかったため、ビザンチン様式のニコライ堂の外観を眺めて、近代教育の発祥地である湯島聖堂へと移動した。湯島聖堂は5代将軍綱吉が上野忍ヶ岡から湯島に移転させた施設で、



湯島聖堂と神田明神周辺の散策

通りを渡った先に「江戸の総鎮守」として親しまれ、日本三大祭りの一つである神田祭で知られた神田明神を参拝する。その後、日本古来の伝統技術と紙染を伝える老舗である「おりがみ会館」を訪れ、和紙染の手法や巧妙なおりがみ細工を拝見しながら、好みに合わせておりがみ材料などを購入した人もいる。ここで流れ解散とし、一部にはニコライ堂の聖堂参拝などに行っただ人もいます。

今回の参加者は吉岡克己(高30) 夫妻、浅野憲子(高31)、紀平清子(高31)、中澤淳郎(高32)、丸谷正明(高32)、山口芳子(高32)と友人三名、栃藪輝子(高32)、上本佳子(高32)、伊達悦子(高32)、播 道子(高32)、高野 史(高40)、森本和滋(高40)と私を含めて十七名でした。

今回を以て、宝相華会東京支部の「首都圏近郊の散策」は最終回とさせていただきます。皆様のご協力に感謝いたします。

ともしび会だより

「自由」



吉田 彬 (定昭36年卒)

小生は今年七十六歳になった。後期高齢者の入口を少し入ったところだ。

振り返ってみると、小学校四年生(十歳)位から働き始めて、六十五歳まで五十五年間働きづめの生活だった。

家での内職の手伝いを皮切りに新聞配達や店員、公務員を経て銀行役員を退任するまで我ながらよく頑張ったものである。

途中結婚して子供が出来ても、育児や家事手伝いなどは全て妻まかせで、正に仕事一途でやってきた。その間いつ

も感じていたのは睡眠不足であった。毎日毎日時間に追われる仕事が続いて、心ゆくまで寝るという事は全くと言っていい程なかった。仕事から解放された六十五歳以降も五年間位は仕事の事が頭から中々離れず、いつまで引き摺るのだろうと思っていたが、ここ二三年前から徐々に過去を振り返らないで過ごせるようになり、生まれて初めてこれが自由というものかという実感を得ることができるようになった。

時間を全く気にしないという事ではなく自分の意志で時間を操れることの気持ち良さは正に何物にも変え難い。

世相の動きにも鈍感になることができ、ささやかな年金生活ながら、苦勞の二文字か

山野草

ら解放された喜びは筆舌に尽し難い。

毎週一回のゴルフと、家庭菜園での野菜作りと土作りの楽しみ、昼寝の時間とパズルを解く楽しみも欠かせない。

何かボランティア活動に参加することも時々頭をよぎるが、小、中、高の同窓会(クラス会)幹事を仰せつかつてるので、当面はこれで勘弁

木村 文彦 (定昭41年卒)

願おうと思っている。

体力が日々に衰えていくのは止むを得ないが、一世紀を生き抜いた暁に神の御託宣があればこれに越したことはないと思っている。きつと天罰が当るに違いない。

高校時代のことも記憶に残る思い出が数々あるが、今はもうほんの一瞬の出来事のように感じる今日此の頃である。

私が小学校六年生の時、理科の授業で食虫植物を習い、変わった植物があるものだと教科書を見てみると、どこかで見覚えがある。「そうや、うちの畑の水くみ場の周りにあるのと一緒や」今の奈良高の北側に父が畑を借りており、日曜日ごとに手伝っていた。その時見ていたのだった。理科の先生も見事なものらしく現場へ案内する事になっ

た。先生二人と六人ぐらいで、こんな近くに食虫植物のモウセンゴケ(葉に腺毛を密生し、粘液と消化液をだして小型の昆虫を捕えて溶解する)があるとは珍しい、良く見ていたなど言っ下さり嬉しかったのを思い出しました。

今から五十七年前の話です。それ以来花が好きになり興味をもっていましたが、五十歳位までは花を育てる事が出来

なかった。ある時新聞に吉野の大淀のお寺に「大山レンゲの花咲く」の記事を見て、さっそく見に行く事に。すると偶然ともしび会の後輩でO君と出合い彼も見ることが好きで休みの時は山に出かけているようで、それ以来一緒に同行するようにになりました。奈良、京都、三重、滋賀県などの里山や湿地を見て回り写真を写しました。早春の花、節分草に始まり、春はカタクリ、二輪草、夏はサギ草、秋は大文字草、四季の花を見て回るのも楽しみでした。約二十年前、妻は奈良市の春日公民館での山草会に入会、会員間での苗の交換や園芸店での購入で山野草を育て始めました。私は六十九歳で今年春日山草会に入会し、妻の後に継ぎました。初めて展示会



に参加、ほとんど妻の作品でした。当日花の咲いているのを出すのですが、花が咲き終ったり、大変でした。花と鉢それに合う花台などバランスを考えながらの展示、先輩からの指導を受け無事終了しました。山野草に興味のある方、春と秋、春日公民館にて展示会を開催しています。お待ちしております。

つどい会だより

♪マイ・ライク・ウォーキング♪

「四季の花々が咲き香り」

馬見丘陵公園に朋友が集う 喜びが 笑顔の輪に広がる

つどい会顧問 中川 昭雄

(通平10年卒)

十月二十三日(日)晴。秋。私たちが今日これから訪ねる先に展げるそこには、奈良県産が誇る全国屈指の文化歴史遺産が集中する地域があり、その地域は東京ドーム約十二コ分に相当する、広大な面積を持つエリアであり、現在は歴史公園として市民に愛され続ける。「馬見丘陵公園」と呼ばれて、春夏秋冬憩いのふさとになっています。

そして、もう一つ、忘れてならない遺産こそ、古代の人々が何千年と刻み続けた巨石の文化。河合町、王寺町、広陵町、上牧町に存在する無数の「古墳」には、遠い遠い古の文化が偲ばれ、訪ねる人に悠久の刻の流れが風の音となって吹き渡っていくように思えます。

私は今日、深みゆく秋を惜しむ心境で、近鉄奈良線学園前駅から桑原会長と二人旅を楽しみ、西大寺駅経由、橿原線で大和八木駅乗り換え、大阪線五位堂駅まで。たった二十分余りのローカル線の旅は心が弾み、車窓に流れ去る家並を目で追いかけるながら、まるで小学生が修学旅行に行く心境と同じで、自然に甦ってくる幸福感を一人満喫しました。

今年には体力が減退して、それと共に気力も衰えてきて、つどい会行事にも参加できなかったもので、それこそ一年ぶりで今日朋友と会えることは、何事にも代えがたい最高の感激であったのです。五位堂駅で待つことしばし、改札に続々現われる元気な顔、顔、顔。

自分の歳も忘れて、「やっぱり皆歳とったなあ…」我を忘れて握手をした。掌の温みがじんわり私のハートを揺さぶって涙が出そうになりました。十一月十三日で私は八十四歳になりますと笑いましたが、皆と比べると若干寂しくなったのは本当のことです。

◎ここで馬見丘陵公園の成立を紹介します。平成三年(一九九一年)奈良県立公園として開園され、都市公園としての位置を確立。近辺には著名な文化遺産である、「築山古墳群」が整備され、周辺に居住する住民の憩いの場として非常に喜ばれている。公園としては歴史的、文化的に価値が高い。最近

は他県から来園者が増加し、春夏秋冬、四季を通じて鮮やかに咲く花々に触れられる喜びは訪れる人達の人気のスポットになっています。

◎馬見丘陵は近隣の香芝市、大和高田市、河合町、上牧町、広陵町に及ぶ、洪積台地で、南北約七キロ、東西約三キロ。東は高田川、西は葛下川、北は大和川によって限界となつています。

◎台地の標高は七十〜八十m。台地の麓は四十五〜五十五mで、沖積平野との比高は約二十五m。奈良盆地の平野群とは異なった様相を見せています。

◎古墳群だけではなく、この地名(馬見)から、古代には牧場として利用されていたとも推定されていて、中世では片岡城も築城されるなど、特色ある地区でありました。

◎南北に伸びた馬見丘陵の最北端に位置し、「城山」と呼ばれ、城山の西、片岡谷一帯は中世の興福寺一乗院

領の諸荘園でした。これらを本拠に成長した片岡国春が、十六世紀前期に片岡城を築城。片岡氏は後に河内の国の松永久秀に滅ぼされ、久秀の支城となりましたが、その後、明智光秀、筒井順慶の五千人の兵と激戦の末、片岡城は落城したと伝えられています。

◎昭和四十四年(一九六九)の、西名阪自動車道開通と前後して、「西大和ニュータウン」など開発が進み、景観の変貌が著しいが、丘陵公園とその周辺には、かつての歴史的景観が残り、歴史愛好家やハイカー達の絶好のヒストリーロードになつていきます。

◎ここから古墳群をいくつか紹介します。最近になって、古墳特有の個性的デザインやミステリアスな存在感から、女性ファンが急増している状況があり、奈良県が誇る全国屈指の古墳が特に集中する地域が散策のコースにあり、自然、文化、歴史、花を訪ねながら、ごく身近に存在する「古墳」は、

世界遺産に相当する価値観があるのです。

◎馬見古墳群の中で最大の古墳は、「巢山古墳」といわれ、国指定特別史蹟になっています。全長約二二〇mの大型古墳で前方後円墳。五世紀初めの葛城地域の王墓と思われる。(築造五世紀初期)近年の発掘調査により新しい発見が相次いでいます。この他の古墳は次に記載。

◎1 ナガレ山 河合町(築造五世紀前半)

◎2 畠田 王寺町(築造七世紀初期)

◎3 牧野 国指定史蹟 広陵町(築造六世紀末)

◎4 上牧久渡 河合町(築造三世紀前半)

あと無数に存在するので以上とします。色々と有難うございました。



なら散策便り

第六十五回なら散策秋の部は、十月二十三日、日曜日「やまと花こよみ・馬見フラワーフェスタ」で開催させて頂きました。十時には集合場所の五位堂駅に、総勢十名のなつかしい皆様が集まりました。バスで会場へ移動。グリーン、コスモスなど二十五万株の花々が咲きあふれてつどい会の皆様を迎えてくれました。

詳しくは、中川氏が寄稿してくださりましたので省略しますが、今回は、久しぶりに参加された方もおられ、とても



うれしい散策でした。シェアがつくる特性ランチも、おいしい奈良を味わうことができました。

つどい会の行事予定

・第六十六回奈良散策
平成二十九年
四月下旬の予定

内容の案「青のシンフォニー観光特急」で阿部野橋から吉野への旅。
予約必要のため、検討中。

・平成二十九年
宝相華会総会

平成二十九年
四月十六日(日) 十時

ホテル日航奈良
会費 五千円
つどい会からも、多数のご参加を。

※総会終了後、「つどい会役員、幹事会」をホテル日航奈良の「喫茶」で開催予定です。

産経新聞 平成28年9月13日 (火)

恩師

元教諭 (平16~20年迄在職)

子供の純真さに触れ 教師の道に進んだ



式年造替 最高潮へ ②



高校教諭時代について語る花山院弘匡宮司。生徒たちと楽しく過ごしたという＝奈良市の春日大社

花山院弘匡さん

かさんのいんひろただ 春日大社宮司

— 国学院大学の神道学科に進まれたのはやはり将来のことを考えてですか

花山院 佐賀で生まれて奈良で育ち、首都で勉強してみたいと思いました。父(親忠さん)は春日大社の宮司で、

自分は息子なので国学院大学に行くのも一つの選択股だと思いました。東京での4年間はいろんな地方から来た人たちと出会って大きく視野が広がりました。

— 教師の道へ進まれたのはなぜですか
花山院 教育実習に行くと、学生たちからすごく好かれ、

手紙もいっぱいもらいました。子供たちの純真な気持ちに触れ、父が教員をやっていたこともあって、意味のある仕事だと強く思っ選したのです。

— 何の先生ですか

花山院 政治経済、地理です。父母も政治経済の話はしたし、私は社会を構成する要素に興味がありました。父は宮司でしたが、折口信夫に学んだ佐賀の民俗学研究の第一人者で、学校では古典の教師でした。学者肌かつ饒舌な人で、自分の人生は自分で選び、責任を持ちなさい」とい

なることに反対しませんでした。

— ご自身はどんな先生でしたか

花山院 最初赴任したのは、統合される前の富雄高校(現・奈良北高校)で、住宅街にある緑に囲まれた学校でした。生徒とは常にいろいろと話をして、修学旅行でも楽しく過ごしました。文化祭でも担任をしていたクラスで劇をする別のクラスの子も参加し、盛り上がりました。とにかく、楽しくて心を開ける授業を心がけました。

— 具体的にはどのような授業のやり方ですか

花山院 富雄高校では「奈良時代の人々の生活について資料から考え漫画を作りなさい」という日本史の授業をしたことがあります。当時は「怒られるような授業やな」と思いましたが、今となれば良い授業でしょう。奈良高校の地理の授業では、お米の分布や生産量を学ぶために実際にタイ米を炊いて食べてもらったりしました。

— 今風の授業ですね

花山院 心を開いて、難しいことにも能動的に取り組むことが美になるのです。興味があわかないまま授業を進めるのは良くなく、せつかくの時間に何かに触れるようにしてあげたいと思ったのです。農作物についても知識だけでなく、実際に口にしたりして五官で感じることで、外国の作物やその地域の人々の暮らしの一端をつかうことができるとしよう。

— 楽しそうですね

花山院 もちろん、そんなことはやりやっていたのではありません。授業は教科書に沿って、進路保障を一番に考えて進めましたので、時々そういうことも織り込みながら楽しくやっていたという事です。子供たちが社会に出ることを思うと、学校ではいろいろなタイプの先生と出会うほうがいいと思います。



...continued

聞き手 岩口利一 / 撮影 彦野公太郎

八十九期生成人同窓会

石田 大起

(平27年卒)

一月八日に89期生で同窓会を開きました。予告ムービー等で期待感を煽り、当日は美男美女グランプリや奈高にまつわるクイズ大会を催しました。会が終わった後も、現在三二六人参加しているLINEグループでお世話になった先生方からのビデオレターを配信しました。参加人数三二〇人超の幸せな、情緒溢れる同窓会でした。



第32回奈良高校OB美術展のお知らせ

奈良高校OB美術展は1986年から毎年開催されている奈良高校卒業生による美術展で、美術を仕事とする人も趣味で制作をする人も参加しています。毎年奈良高校の歴代の美術の先生方と、美術部の在校生の皆様にも出品して頂いていますので、是非この機会に会場に足をお運びくださいませ。

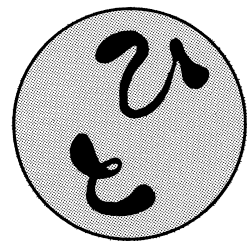
また、新規会員を募集しています。卒業生で美術作品を制作されている方は、下記HPからお問い合わせください。

会 期 平成29年3月28日(火)～4月2日(日)
10時～17時30分(初日13時～ 最終日～15時30分 入場は終了30分前まで)

会 場 奈良市美術館 (イトーヨーカドー奈良店5階 第1展示室)
〒630-8012 奈良市二条大路1丁目3-1
TEL: 0742-30-1510

出品作品 絵画、彫刻、CG、版画、クラフト、
創作書道、その他

お問い合わせ HP「奈良高校OB美術展」
<http://naraobart.web.fc2.com/>



◇ 大和郡山市教育長に

谷垣 康 氏

(元職 昭53～59年在職)

平成28・3・31

桜井高校校長退職

平成28・9・1

大和郡山市教育長に就任

訃 報

安曾田 豊 氏

(定昭29年卒)

元県民生部長

前橿原市長

(平29・1・1 逝去)

ご逝去に対し衷心より哀悼の意を表し、心よりご冥福をお祈りします。

部 活 動 報 告

部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	クラス	名 前	備 考
囲碁・将棋同好会	第36回近畿高等学校総合文化祭囲碁部門奈良県予選	女子個人戦	優勝	2年	中尾和佳奈	
	奈良県総合文化祭囲碁部門兼近畿選手権奈良県予選	女子個人戦	優勝	2年	中尾和佳奈	
ソフトテニス部	平成28年度奈良県高等学校ソフトテニス新人大会兼近畿高等学校ソフトテニス選抜インドア大会奈良県予選	男子団体	第3位			
美術部	第31回奈良県高等学校総合文化祭	美術・工芸部門	優秀賞 (全国推薦)	2年	高羽 美帆	2017年7月から8月にかけて宮城県で行われる全国高等学校総合文化祭に出展
				2年	西川丈二郎	
書道部	第43回奈良県ジュニア県展	書道部門	教育委員会賞	2年	名倉真理子	
	第63回日本学書展	書道部門	奈良市議会議長賞	2年	日下部 瞳	
	第31回奈良県高等学校総合文化祭	書道部門	優秀賞 (全国推薦)	2年	日下部 瞳	2017年7月から8月にかけて宮城県で行われる全国高等学校総合文化祭に出展
				奨励賞	2年	
バドミントン部	第63回近畿高等学校バドミントン選手権大会奈良県予選	男子ダブルス	第2位	2年	西羅 由伸 高塚 光	2016年11月12・13日に大阪府門真市で開かれた第63回近畿高等学校バドミントン選手権大会出場 ベスト8
		男子シングルス	第2位	2年	西羅 由伸	
	第68回奈良県高等学校総合体育大会	女子団体 Cブロック	第3位			
	第45回全国高等学校選抜バドミントン選手権大会奈良県予選	学校対抗の部 男子	第2位			2016年12月25～27日に兵庫県神戸市で開かれた第45回全国高等学校選抜バドミントン大会近畿地区予選に出場
陸上競技部	男子第67回奈良県高等学校駅伝競走大会	総合の部	第6位			2016年11月26・27日に大阪府能勢町で開かれた、男子第67回近畿高等学校駅伝競走大会に出場
		区間の部 第6区	第2位	1年	江守 勇貴	
		区間の部 第5区	第3位	2年	高岡 旦実	
		区間の部 第1区	第3位	1年	小室 龍右	
	第69回奈良県高等学校総合体育大会	男子三段跳	第3位	1年	寺本 樹	
柔道部	第58回近畿高等学校新人大会個人戦奈良県大会	男子個人60kg	第1位	1年	笠川 竜生	2017年1月28日に兵庫県姫路市で開かれた第58回近畿高等学校柔道新人大会に出場
	第39回全国高等学校柔道選手権大会個人試合奈良県予選会	男子個人60kg	第1位	1年	笠川 竜生	2017年3月19日に東京都で開かれる第39回全国高等学校柔道選手権大会に出場
化学部	化学グランプリ2016	一次選考	成績優秀者	2年	山嵜 勇輝	

部活名など	大会・コンクール名	部 門	賞	クラス	名 前	備 考
化学部	第60回日本学生科学賞奈良県審査		優秀賞	2年	山 嵯 勇 輝	
アーチェリー部	第55回奈良県高等学校アーチェリー選手権大会	女子個人	優勝	2年	東元 千尋	2017年3月26～28日に静岡県袋井市で開催される第35回全国高等学校選抜アーチェリー大会に出場
		女子個人	第3位	2年	高橋明日香	
		男子個人	第2位	2年	飯田 勉民	
			第3位	2年	向井 虹渡	
	平成28年度奈良県高等学校アーチェリー新人大会	女子個人	第2位	1年	倉田 涼花	
			第3位	1年	小西 真瑚	
テニス部	第3回奈良県公立高校大会	男子団体	第3位			2017年1月5・6日に和歌山県和歌山市で開催された近畿公立高校大会に出場
		女子団体	第3位			
音楽科	第70回全日本学生音楽コンクール全国大会	フルート部門 高校の部	3位入賞	3年	松岡 優	

学 校 行 事



体育大会



青丹祭



青丹祭模擬店



修学旅行ラフティング



修学旅行上高地



中庭コンサート



SSH 研究発表会



文化鑑賞会



新春かるた会